



林業を学び 人材を育てる

未来の担い手を応援しよう
林業後継者育成活動事例集

令和6年度 未来の林業を支える林業後継者養成事業

 全国林業研究
グループ
連絡協議会



林業も学び 人材も育てる

未来の担い手を応援しよう

林業後継者育成活動事例集

令和6年度 未来の林業を支える林業後継者養成事業



全国林業研究
グループ
連絡協議会



まえがき

政

府は10年後に花粉発生源のスギ人工林を約2割減少させることを目指し、将来的には花粉発生源の半減を目標とする政策を進めており、林業の役割が改めて重要になってきています。

ところが林業現場では人材不足が深刻になってきており、林業を担う若者の確保・育成は大きな課題となっています。

そのような中、森林・林業の担い手である私たち全国の林業研究グループメンバーが、いかに地域の若者たちに林業を知ってもらい、仕事として認識してもらえるように働きかけていくかが重要になると考えます。

林業の仕事の魅力を伝え、就業希望者のすそ野を広げ、現場での技術指導等を通じて林業教育を支援するなど、私たち林研グループだからこそできる様々な活動があります。

森林・林業に関心のある高校生等を対象とする林業への就業促進活動への支援として、高校生等に対する林業経営・就業体験および林業技術研修の実施について、学校周辺地域における就業体験の実施に加え、さらに今年度からは新たに、都道府県を越えた講師派遣による「出前型授業」等の実施に取り組みました。全国林業研究グループ連絡協議会から林業現場の第一線で活躍する講師を派遣し、スマート林業などの多岐にわたる講座を実施したところです。

このような活動を通じて、地域の林業全般に関わる業種に触れ、就業先の選択の1つとして、林業という仕事の魅力を心に刻んでもらうことができました。

また、女性の林業就業を支援する活動も全国に広がりました。体力面での男女差を考慮する中で、林研グループの活動から、安全に、

無理なく働ける就業環境づくりの工夫やアイデアが生まれ、林業との多様な関わり方を応援する男女共通の魅力ある職場づくりに寄与している成果も生まれています。

このような全国での支援活動は、私たちの仲間だけで実行できるものではありません。高校や大学等、地域の教育関係者、そして技術指導などを支援する林業関係者の方々の理解と協力を得て、はじめて効果のある活動づくりが可能になります。

ここに紹介した事例には、後継者の育成支援、林業就業促進支援等、各地域の林研グループによる実践のためのノウハウ、ヒントの数々が盛り込まれています。地域での林業後継者づくりに繋げるためにも、地域の林業関係者、教育機関と連携した活動に、ぜひ本書を役立てていただければ幸いです。

本書の取りまとめに当たりましては、ご協力いただきました林業関係高校、大学校等教育機関、都道府県林業普及指導員、市町村、森林組合、森林所有者の皆様、全国林業改良普及協会ほか、大勢の方々に深く感謝いたします。

令和7年3月

全国林業研究グループ連絡協議会

会長 齋藤 正

令和6年度 未来の林業を支える林業後継者養成事業

林業を学び人材を育てる 未来の担い手を応援しよう 林業後継者育成活動事例集

目次

まえがき……………3

第1部 森林と林業の仕事を伝える

高校生等の林業就業体験等

安定した継続力

地域で育てる林業後継者

茨城県林業研究グループ連絡協議会「茨城県」……………8

森林・林業・木材産業への架け橋に

専門学校生と高校生の人材育成研修

日光地区木材流通研究会「栃木県」……………12

林業と言っても

いろんな関わり方があるんだよと

飯と猫と林業女子会「群馬県」……………16

それぞれの年代で森林と携わる

チェーンソー、ハーベスタによる

高校生のVRシミュレーター体験

魚津地区林業研究グループ協議会「富山県」……………20

少人数体制できめ細やかな指導

実体験の場を提供し、就業意欲を高める

愛知県指導林家連絡協議会「愛知県」……………24

森林組合や町役場と取り組む
林業現場を肌で感じる研修会

かみやま林業振興会〔徳島県〕……………28

やりがいや面白さを体験してほしい
地域の貴重な“人財”を林業の世界へ！

球磨地区普及・林研グループ連絡協議会〔熊本県〕……………32

高校生等の林業就業体験等＋出前型授業

地域林業を守る 高校生の後継者育成
1～3年生のICT、チェーンソーアート、
ブナ林、高性能林業機械研修

北信州の森林と家をつなぐ会〔長野県〕……………36

未来の林業を支える若い力！

地域林業を盛り上げる体験研修

門川町林業研究グループ連絡協議会〔宮崎県〕……………40

第2部 山づくり 人づくり ものづくり チャレンジ！

「ヨロイマツ」遺伝子の保存にかける夢

大田市林友会〔島根県〕……………46

子どもも山主さんも森林への関心を！

武内町親林会〔佐賀県〕……………48

建築学科の高校生にインターンシップ提供

津山町林業研究会〔宮城県〕……………50

竹の活用技術を地域住民に伝授

三次市森林・林業研究会〔広島県〕……………52

継続15年 高校生への間伐指導	
千葉県林業研究グループ連絡協議会「千葉県」	54

継続20年以上 小学校での体験教室	
佐伯市林業研究グループあさぎりの会「大分県」	56

Uターンで林業に就き、起業。	
木炭の地産地消をきっかけに加入	
三隅林業研究グループ「山口県」／福永篤史さん	58

森林と人が共に育つ森林環境「共育」	
館岩グリーンフォレスト「福島県」	60

山の恵み「葉草」で暮らしを豊かに	
真庭森林・林業研究会「岡山県」	62

「お山食堂」から始まる林業の未来	
岩手県森林組合青年部連絡協議会「岩手県」	64

巻末資料

林業で働くために	68
森林・林業に関する学科・コース設置校一覧表（林業大学校等）	70
令和6年度 未来の林業を支える林業後継者養成事業 実施グループ一覧	71
全国林業研究グループ連絡協議会 事務局一覧	72

第1部

森林と林業の仕事伝える

事

高校生等の林業就業体験等

例

安定した継続力 地域で育てる林業後継者

茨城県林業研究グループ連絡協議会「茨城県」



研ぎの練習をしながら雑談。
地域の人との「斜めの関係」が生徒を豊かに育てる

「林業をとったら何も残らん」
熱い思いで続ける林研活動

茨城県林業研究グループ連絡協
議会（あきやまよいち 稚山與市会長、以下、県林

研）は、10月24・25日の2日間に
わたり、茨城県立大子清流高等学
校（以下、清流高校）生徒への間
伐と高性能林業機械の体験実習を

行いました。県林研は、
県内13の林研グループ
からなり91名の会員を
擁しますが、全国的な
流れと同様、高齢化に
よる会員数の減少や活
動の停止などに直面し、
稚山会長みずから県内
各地に出向き活動を支
えています。

このような状況であ
っても、設立時から変
わらぬ顔ぶれで活発な
活動が続けているのが
大子町林研グループ
（以下、大子町林研）

です。清流高校はこの大子町にあ
ります。大子町林研の会員の多く
が同校前身校のOBということも
あり、林業体験実習では主催する
県林研の下で力強くかわつてき



生徒の到着を出迎える会員たち

ました。学校側も授業の年間スケ
ジュールに組み込んでおり、安定
した継続力で、同校が再編開校し
て以来、今回で18回目の開催とな
りました。



「茨城県の林業を支えて行ってほしい」と平易な言葉で語りかける稲山県林研会長

今年度も生徒が実習を受けやすいよう、前日に現場を整備していただきました。

清流高校は県内で唯一林業を学べる高

校です。大子第一高等学校と大子第二高等学校を統合して平成16年に開校。森林科学科1クラスと総合科学科2クラスの2学科があります。森林科学科では2年生から、森林科学コースと農業科学コースに分かれ、少人数で専門的な教育を受けることができます。

森林科学科は全国から生徒を募集しているのが特徴で、隣接県から通う生徒や、遠方から入学し大

歩いて移動。班ごとに持ち場に着くなりすぐにチェーンソーのエンジンが響き始めました。生徒たちは事前に「チェーンソーによる伐木等の業務に係わる特別教育」を受講しているので「言葉で教えるより、実際に伐倒をやった方がためになる」という考えです。

一班を指導するのは山仕事歴が50年以上になる金澤一美さんと大子町森林組合作業班6年目で20代

大子町林研の会員数は25名。入会50年以上になる60代後半～70代後半の会員に加え、20代～50代の山仕事現役世代が7名おり、林業を継いだ息子と親子で参加している人もいます。

主な活動は清流高校への林業体験実習のほか、巡回による間伐推進を行ってきました。活動のある大子町は茨城県北西部に位置し、北は福島県、西は栃木県に接しています。面積は3万2600haで、森林は約8割を占め、人工林率は69%。八溝杉(ヤミゾスギ)のブランドで知られ茨城県を代表する林業地です。大子町林研の戸辺洋一顧問は「いい山がたくさんある大子町から、林業をとつたら何も残らん」と思いを語ります。

地域活性化につながる林業体験実習

10月24日、清流高校農林科学科生徒へチェーンソーでの間伐実習を行いました。森林科学科の1年生全員と、森林科学コースを選択した2年生と3年生を合わせた24名が参加し、1班4名で全6班に分かれ、それぞれに2、3名の指導員が入りました。場所は会員が所有する樹齢約30年のヒノキ林で、大子町森林組合が間伐を請け負っている現場です。大子町森林組合の松浦宣章組合長も清流高校前身の校のOBで林研会員でもあり、また後継者育成の観点からも森林組合として協力し、ここ3年ほどは実習場所と高性能林業機械を提供しています。



引き締まった顔つきで実習に臨む清流高校農林科学科の生徒たち

子町で1人で暮らしながら学ぶ生徒もいます。卒業後、林業関連の仕事に就いて地元に残る生徒がいるので、林業体験実習を通じた高校への支援は、人口減少に悩む大子町の活性化にもつながっている」と県林研では意義を感じています。

「斜めの関係」で豊かな学び

実習当日は、開会式での稲山会長の挨拶が終わると林道を



「チェーンソー技術は将来いろんな役に立つ」と話すベテラン金澤一美さん



菊池駿太さんはお兄ちゃんのように生徒に寄り添って教えていた

の菊池駿太さんです。金澤さんは「たとえ林業の仕事に就かなくても、チェーンソー技術は将来家を建てたとき自分で庭木の手入れができるし、災害時にも役に立つから、しっかり覚えておくんだよ」と生徒に語りかけ、菊池さんはエンジン音に緊張する生徒に寄り添いながら指導していました。

スギに比べ繊維の弾力が強く枝が多いヒノキ間伐は、掛かり木になることが多いので、あらかじめロープ等を使って引っ張っていき、狙った方向に無事に倒れたとき、どの生徒にもバツと安堵の笑顔が広がります。その集中した態度を見た担任の先生は「身につく学びですね」と話していました。

昼食を食べ、午後はチェーンソーの刃研ぎです。エンジン音がしない静かな時間に大子町林研の鈴木良一さんが「日曜日は何やってんだ？」と神奈川県から来て1人暮らしをしている生徒を気にかけていました。学校と家庭の縦の関係に加え、地域の人がかかわる「斜めの関係」が、生徒を豊かな人育ててくれていると担任の先生は言います。林研が学校を支援することの、もう1つの効果です。

ベテランの指導で 早い上達

翌25日は高性能林業機械の体験実習を行いました。参加するのは林業科学コースを選択した2年生と3年生の11名。3人1組に分かれ、ハーベスタ、グラップル、フオワーダを班ごとに巡回しながら操縦します。指導役は林研会員8名と森林組合作業班の3名で、ベテランの大蔵真人さんは操縦席に手が届く位置に立ち、安全に最大限の配慮をしながら生徒を教えていました。

50年以上 変わらぬ関係

大子町林研の二方会長は「口で言っても覚えられないから、ちゃんと付いて体で教えてもらおうのが一番の近道です」と。ゲーム世代の生徒たちは午後には緊張もほぐれ、「明日から働けそうだな」と声をかけられるほど上達しました。

体験実習には、県林研、大子町林研、大子町森林組合、清流高校教諭、茨城県林業技術センター職員、県大子林業指導所職員ら総勢27名もの指導者が参加しましたが、大人たちにも生徒に負けず劣らず和気あいあいとした雰囲気がありました



「アームの操作は慣れるまで大変でした」。菊池駿太さんに体で覚えられるよう教えてもらう生徒

林業体験実習は大きな役割を果たしていることは言うまでもありませんが、お手本となる先輩や大人から人生観を学ぶ機会にもなっています。この生徒らの立場を一番よく理解し

入学後すぐ、
迫られるよう
に進路選択を
考え始める専
門科目の高校
生にとって、

ているのが県林研と大子町林研であり、来年もこれまでと同様、変わらぬ支援を続けるつもりです。

＊まとめ 編集部



エンジン音が響く中、生徒の手をとりながらハーベスタの操縦を教える大蔵真人さん

た。大子町林研では年配者同士「みねちゃん」「ようちゃん」と親しみを込めた名で呼び合い、50年以上もずっと仲が良い理由を「農林家の長男として家に残った人たちが多く、同じ立場の者同士分かり合えるからかも知れない」と戸辺顧問は言います。「家を支えて、働いて、子どもを育て、みんなで一緒に歳をとってきたんだ」と。

二方会長は「毎月のように飲み会やって家族と同じくらい気心が知れているから」だそうで、随分減ったと言いつつ、いまも年4、5回は懇親会をやっているそうです。年長者たちの仲が良くと若手も居心地が良く、このほのぼのとした雰囲気が大子町林研の特徴かも知れません。県林研の椎山会長も、衰えを知らぬ大子町林研の活動に期待を寄せています。

表 卒業生進路実績（令和5年度）

	農林科学科卒業生		林業関係進学者数		林業関係就職者数		林業関係	
	うち森林林学	うち森林林学	うち森林林学	うち森林林学	うち森林林学	うち森林林学	主な進学先	主な就職先
令和元年度	15	7			2	2		大子町森林組合 宮の郷木材事業協同組合
令和2年度	7	4	1	1			長野県林業大学校	
令和3年度	16	6			4	3		宮の郷木材事業協同組合 日立建機株式会社 細田木材工業株式会社
令和4年度	11	5			4	4		大子町森林組合 クボタ環境エンジニアリング株式会社 株式会社スズキアムテック 日立建機株式会社
令和5年度	8	3			2	2		株式会社ヨシナリ林業 鯉川運送株式会社
令和6年度	7	5			4	2		株式会社ヨシナリ林業 野上製材所

事

高校生等の林業就業体験等

例

森林・林業・木材産業への架け橋に 専門学校生と高校生の人材育成研修 日光地区木材流通研究会「栃木県」



伐採木から造材を学ぶ学生たち

木材利用の盛んな地域で

日光地区木材流通研究会（以

下、研究会）が主に活動している
鹿沼市は栃木県北西部に位置し、
男体山から連なる日光連山の麓に

位置しています。

鹿沼市全体の68%が森林で、民
有林の人工林割合は76%と、昔か
ら林業が盛んな地域です。

伐採された木材を活用した建築
材（柱・梁等）の製材や家具・建
具等の生産も盛んで、鹿沼インタ
ーチェンジを降りて車で5分の場
所に木製家具や建具、建材等を営
む企業が集合した鹿沼木工団地も
存在しています。

研究会の日頃の活動は、月に1
回ほど会員が運営するイベントホ
ール（通称…ピノキオホール）で、
今後の森林・林業の方向性や木材
の利活用方法等（森林認証・J-
クレジット・人材育成・原木流通・
木材強度試験等）の様々な課題に
ついて、夕食を囲みながら真剣な
議論を交わしています。

森林・林業・木材産業の
多様な人材育成に向けて

さて、このような研究会ですが、
ここ数年、特に森林・林業・木材
産業に携わる人材育成にも力を入
れており、都内で建築・インテリ
ア等のデザインを専攻する学生や
林業を専攻する地元の高校生を対
象に研修を行っています。

専門学校生
林業の循環を学ぶ体験

学校法人 環境造形学園 専門学
校 ICS カレッジ オブ アーツ は
東京都にある建築・家具・インテ
リア等の勉強を行う専門学校で、
学生たちは卒業後、様々な建築設
計事務所や家具・インテリア関連
の企業等に就職していきます。

就職後、学生たちは学校で得た



間伐体験でチェーンソーの仕組みを学ぶ



メンバーより、ヒノキの植栽の指導を受ける学生



鹿沼原木市場を視察



森戸工房でハンドメイド家具作りについて説明を受ける

知識を建築設計やインテリアデザイン等の様々な場面で生かすことになります。そのデザインに木材を積極的に取り入れてもらうことで将来の木材利用促進につながるのではとの観点から、毎年、専門学校が夏休みに入る8月上旬に鹿沼市へ来てもらい研修を行っています。今年度は8月5・6日に一泊二日の日程で14名が参加しました。

1日目は、山に木を植え、間伐を行い、木を採材し、伐った木の断面で木取りを勉強しました。

学生たちのアンケートから

まず。

研修終了後、毎回アンケートを

2日目は製材工場を訪ね、ハンドメイド家具工房では作成工程についての説明を聞きました。その後は木材をふんだんに用いた木造建築物の見学と盛りだくさんの研修です。

「植えて、育てて、伐って、活用し、また植える」という林業における森林資源の循環をそのまま研修に当てはめた内容になります。



初めての植栽、伐倒体験を終えて集合写真

取っていますので、紹介します。

☆百年前の祖先たちが植えた木々が現代の人に使用されるのを見ました。自分が植えた木も百年後にはまた誰かの役に立つかもしれない。百年単位のこのような仕事はロマンチックだと思います。当時植えたのはどのような人たちだったのだろうかと考えてしまいます。

☆木材の加工の仕方（伝統的な工法を含む）や様々な樹木の特性を知りたい。☆収益や人件費などの経営に関するお話も伺えたら、卒業後を見据えた想いから現実的な視点に立った内容までいろいろな感想をいただきました。

卒業後は様々な仕事に取り組まれることと思いますが、新しい分野でのさらなる木材の利活用（需要量の増加）の促進につながればと考えているところです。

高校生 林業講義とドローン体験

栃木県立鹿沼南高等学校は鹿沼市にある県内唯一の林業コースがある高校です。毎年、卒業生の中には県内の林業事業体に就職する生徒や、さらに林業を深く勉強するため県内の林業大学校に進学する生徒などがあり、本県の林業において馴染みの深い高校です。毎年、研究会が高校に赴き、林業の現状やドローンの操作研修等



スマート林業の講義を聴く生徒たち

を行っているところで、今年度は11月12日に開催しました。

研修の内容は、座学で現在の林業の状況を学び（少し眠そうな生徒が多めですが）、林業でドローンが活用されている事例紹介（この講義が始まると少しずつ目が輝き始めます）、ドローンで撮影した画像解析による森林材積や地形の解析（説明に入る頃は講師を務めるメンバーの話に聞き入っていました）となっています。

講義（座学）終了後、校庭のグラウンドを借りてドローンの操作研修を行いました。最初は操作盤に触れるのを怖がっていた（機体の購入価格も説明していました）生徒たちも、1人2人と操作するうちにだんだん慣れてきて、最後の頃にはみんなで騒ぎながら楽しくドローン操作を行っていました。

ただ、研修中に着陸を失敗したドロー



ドローン操作に挑戦、慣れてきて楽しくなってきた

ンが逆さになってしまい、ドローンを持ち込んだ事業体の方が「やっぱ、プロペラが壊れたか」という時間が少し止まる状況もありましたが。

研修終了後のアンケートより

☆植林作業など現場での研修をしたい。

☆林業で用いられる重機の研修をして欲しい。

☆より実践的な研修を行って欲しい。

等の就業先に林業を見据えた意見も数多く出されていました。

本研修を通して、卒業後の進路（就職先）に林業関係が選ばれればと考えているところです。

減少し続ける林業従事者

栃木県における林業従事者は昭和35年度には約6300人と多くの方が従事していましたが、昭和52年には約2200人、平成4年には1200人と減少の一途をたどり（以上、栃木県林政史より）、令和5年度は約700人（栃木県森林・林業統計書より）にまで減少しています。

このような中、本研究会の活動が続けることで少しでも林業に関心を持ってもらえるきっかけになり、森林・林業・木材産業関係に就業する方が増えてくれればと考えています。

おまけ イベントでもPR活動

研究会の構成員は鹿沼市の林業関係者が組織する「鹿沼市林業振興会」および「鹿沼地区林業振興協会」の会員にもなっており、市内で行われる様々なイベントに参加し森林・林業・木材産業のPR



木製ボウリングはイベントでも大人気

をしています。

主にのこぎりを用いた丸太切り体験や木製ボウリングなどの木と触れ合う活動を行っているのですが、どのイベントでも幼稚園・保育園や小学生の児童・生徒に好評で、「この子たちすべてが木こりになってくれれば林業に携わる人の人材難なんて関係ないのよね」と話す今日この頃です。

＊まとめ

日光地区木材流通研究会
特別会員（栃木県県西環境森林事務所 林業経営課）
寺尾裕之

事

高校生等の林業就業体験等

例

林業と言っても いろんな関わり方があるんだよと 飯と猫と林業女子会「群馬県」



神流町森林組合の土場で体験会参加者と記念撮影

11月上旬、群馬県の神流町^{かんな}で
林業の仕事に興味のある女子学生
などを対象に「林業就業体験J K

(女子高生)・J D (女子大学生)
だって林業やってみたい」が開か
れました。

自らの体験を伝えることにより、
女性でも無理なく就業できる多様
な林業関連の仕事への理解を深め
てもらおうと、伐倒作業の体験や
木材利用の見学、参加者による座
談会が行われました。

主催したのは群馬県の林業女性
グループ「飯と猫と林業女子会」
(田村美恵子会長) です。

ゆるく、美味しく、
楽しくおしゃべり

「飯と猫と林業女子会」(以下、
女子会) とは変わったグループ名
ですが、このような名前にした理
由について田村会長は次のように
話してくれました。

「基本的に私たちは林業関係で
働く女性たちがゆるく集まり、美
味しいものを食べながら、楽しく
おしゃべりしましょうという会で

す。

正式な会の発足は令和5年の8
月ですが、その前年の11月に集ま
り、メンバーが育てた新米やみん
なが持ち寄ったおかずを食べなが
ら語り合ったのが最初の催しです。
猫好きな人が多かったので「飯と
猫と林業女子会」という名前にし
ました」

会員は群馬県内の林業に関わる
仕事に就いている女性で、現在20
〜50代の10名です(今回を機に2
名増えました)。

メンバーは森林組合や林業会社
で働く人、フリーで山仕事に就い
ている人、シイタケ栽培を手がけ
ている人、地域おこし協力隊員、
林業関連専門のキャリアコンサル
タントなど、林業関連といっても
仕事は様々です。

女子会はそんな人々が交流を目



飯と猫と林業女子会の田村美恵子会長
(左)

森林で働くという生き方を 応援したくて

的として立ち上げたグループですが、メンバーの推薦で講師を迎えて「推し活研修会」を行うなど、各人のスキルアップを目的にした活動も積極的に行っています。

今回の林業就業体験の前日も「推し活研修会」が行われました。神流町在住の平松講師により、安全にイベントを行うための現場づくりや道具の使い方等の現場研修のほか、途中からの雨のため講師による林業講話と林業関連職場で働く女性のための座談会や、神流振興合同会社で企画開発に携わる講師による精油製品の教室が開かれました。

女子会は田村会長が中心になっ

て設立されたのですが、その田村会長は平成17年、群馬県林業労働力確保支援センターにアドバイザー補助職として入り、3年後に林業就業支援地域アドバイザーになりました。このアドバイザー時代は林業体験会を開催したり、各種の林業就業相談会へ参加することで、「林業をやってみたい！」という方を就業に導いてきました。

「しかし、あんなに意気揚々と林業に就いた方々が3年とか5年とかで次々と辞めていってしまうんですね。特に女性は9割以上が男性という林業職場で、時に辛い思いをすることもあり、また結婚や出産をきっかけに林業の職場を離れてしまうケースも多いです。男女共にどうしたらもっと続けてもらえるのか、また復帰しやすい環境を作れないかと考え続けてきました。

そうやって考えた末に辿り着いたのは、就業前にはそれなりの相談機関があるのに、就業してからは相談機関がないということ。就業後のケアが足りていないのではということでした。悩んでしまった時に「何か辞めたくなくなっちゃっ

たんです」と気軽に相談できる人がいたら良いのではないかと思います」

そこで田村会長は国家資格キャリアコンサルタントの資格を何とか取得し、「森林で働くという生き方を応援します！」をキャッチフレーズに「フォレスト・キャリア・サポート」としての活動を始めました。平成31年4月のことでした。

ただ体制は整えたものの、組織を離れて個人で相談という業務をするのは難しいのが実態でした。それでもこれまでの人脈から「田村さんのところに相談に行ってみるといいよ」と紹介してもらったり、雇用管理研修会や各種研修会の講師としても活動してきたのです。現在は、相談スキルを磨くためにも、群馬大学で就職活動のキャリアアカウンセラーとしても活動しています。

神流フォレストベースで 伐倒作業の体験

この「飯と猫と林業女子会」による林業就業体験会は、11月3日に群馬県の神流町で開かれました。



神流フォレストベースの山林

神流町は群馬県の南西部にあり、人口は約1600人。約90%が森林です。日本で最初に恐竜の足跡の化石が発見されたことでも知られています。

当日はいつもより遅い台風の影響を受けるのではないかと心配されましたが、天候にも恵まれ、伐倒作業などの体験、地元材を利用した住宅の見学、そしてメンバーとの座談会が予定通り行われました。

この体験会の参加者は、学生さん2名に一般の方1名の3名でしたが、当会のメンバーが8名に講師1名。途中から講師の娘さん(中学生)1名も加わって、賑やかに行われました。



伐倒後に木口面を検討する

講師は前日の「推し活研修会」に引き続き、平松林業代表の平松謙さん（神流町）です。一般的な樹木の伐採・搬出に特殊伐採なども行っており、時には群馬県立農林高等学校などで伐採等の指導もしている方です。

平松さんはまず安全作業と林業道具の説明から始めました。道具はヘルメット、防護パ

ンツ、手袋などの身につけるものや、腰袋に入れて持ち運びしているクサビ、ハンマー、鉋、各種ロープ。それからチェーンソーやロープを引っ張るロープウインチなども。

その後、実際の伐倒作業に入り、受講者は1人1本、3人で3本のスギをチェーンソーで伐倒しましたが、平松さんは1人1人に受け口や追い口の方向、深さ、角度などについて、具体的に指導していたのが印象的でした。

伐倒作業の終了後に受講者は平松さんから輪切りした丸太をプレゼントされていました。

自らの体験を語り合つての座談会

伐倒作業の体験を終えてからは、神流川に面している「こいこいあいランド会館」に移動。そこで昼食をとりながらメンバーと参加者の座談会が行われました。

最初にメンバーが順番に自己紹介を兼ねて発言しましたが、おおむね次のような話を聞くことができました。

☆10年くらい看護師をしていたが、登山、キャンプが好きで林業の世界へ。自分の山を手に入れたら、子どもたちを自由に遊ばせる場所などを作りたい。

☆学校を卒業してから自衛隊やフリーの仕事に就いた後、森林組合に勤務。事務の仕事が多いが、

学生さん2名は群馬県立農林高等学校（高崎市）の農林業ビジネス学科森林コースの1年生、2年生です。

午前中は伐倒作業の体験です。場所は神流町産材「神流杉」「神流檜」のPR拠点として令和5年に町が整備した「神流フォレストベース」です。伝統工法で建てられた五重塔やあずまやもあり、川向かいには



伐倒終了後には講師から輪切り丸太をプレゼント

道の駅「まんば万葉の里」があります。



こいこいあいランドで昼食をとって、午後は座談会

時には測量など現場の仕事に就くこともある。狩猟免許をとった。

☆森づくりのボランティア活動に参加して3年間、林業の地域おこし協力隊。その後、森林組合で働き、現在は独立して特殊伐採などの仕事をする人が多い。
☆現在、森林組合で働いているが、残業があまりないところがいい。
☆登山が好きで登山ガイドを経て、現在は林業振興の地域おこし協力隊で働いている。

当日参加できなかったメンバーからのメッセージも紹介されました。

☆大学を卒業後、森林組合に就職。自然の中で仕事ができただが、狭い業界で人間関係にも悩んで退職。背水の陣で樹木関係の資格を取得。現在は一般のパート勤めだが、休日は自然に関する活動で現場に行けるのが楽しみ。

このような女子会のメンバーの話の後で、学生の参加者からは、皆さん方のお話を聞かせていただいて、林業と言ってもいろいろな関

わり方があるということを具体的に知ることができ、大変参考になりました」との感想を聞くことができました。

伝統的構法の町営住宅なども見学

座談会の後は、地元ブランド材「神流杉」を使って建てている神流町の町営住宅を見学しました。建てているのは伝統的な木造建築技術の後継者を育てる「大工志塾」の塾生たちです。課題製作（集合実技研修）の一環として建てているもので、これまでに約290人が参加しているそうです。石の



伝統的構法で建てている町営住宅を見学

基礎の上に直接柱を建てる「石場建て」や、柱と柱の間に板をはめ込む「板倉造り」という伝統的構法を用いた住宅です。この町営住宅は棟上げ後に地元工務店が残りの工程を行っています。

手を雇う、頭を雇う時代から、心を雇う時代へ

女性のみならず長い間、林業従事者の相談に乗ってきた田村会長は、次のような話もしてくれました。

「林業の業界の中では、昨日今日入ってきた人が意見を述べるといったことが難しいようですが、雑談のようにいつでも何でも話せる職場づくり、そしてどんな意見でも一度はみんなの話し合いのテーブルに載せてみることが大切のように思っています。」

これからの時代は『手を雇う、頭を雇う時代か



「飯と猫と林業女子会」の皆さん

ら、心を雇う時代になる』と言われていきます。受け入れ側の林業事業体の方も大変でしょうが、心を雇うという意識改革もますます重要なものになっていくと考えられます」

林業事業体の意識改革。

何でも打ち明けられるようなグループの存在とともにますます重要になってきていることを感じるのでした。

*まとめ 編集部

事

高校生等の林業就業体験等

例



VRチェーンソー体験(富山県林業カレッジ)
生徒はあまり恐怖感がない様子だった

それぞれの年代で森林と携わる チェーンソー、ハーベスタによる 高校生のVRシミュレーター体験

魚津地区林業研究グループ協議会「富山県」

地域と協議会の紹介

私たちの魚津地区林業研究グループ協議会(以下、協議会)が活動する地域は、富山県の新川地区(滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町の5市町)に位置し、県土の約4分の1、民有林面積は2万8000haで県全体の17%を占めています。

雄大な立山連峰をバックに日本一のV字峡「黒部峡谷」、富山湾の神秘「蜃気楼」、日本一大きい「入善ジャンボ西瓜」、青緑色に輝くヒスイの原石が取れる「宮崎ヒスイ海岸」、特別天然記念物「ホタルイカ」など、ここでのしか味わえない豊かな自然や特産品があり

ます。

昭和42年8月、山村から青年層が離れていく中、「豊かな山村づくりは我々の手で」をスローガンに山村の若者、特用林産物生産者、森林組合職員等15名が参加して協議会を発足させました。

現在は、高齢化の影響もあり、主なメンバーは森林組合職員となつていますが、男性19名、女性7名の計26名で活動を行っています。

活動コンセプト

協議会では、「それぞれの年代に合わせた森林の携わり方」を活動コンセプトとしています。イメージ図に示すように、小さな子供がいる若い家族には「STEP1」

として「ぬくもりある生活」を、「STEP2」は小学生の「森の大切さを知る」、「STEP3」は中学生の「挑戦してみる」、「STEP4」の高校生は「実際の森に触れる」、そして「STEP5」は一般社会人を対象に「木に触れ森に携わる」というように、それぞれの年代ごとに区分したテーマで森林と触れ合える活動・体験を行っています。

活動の経緯

現在は、このように年代に合わせた活動を行っておりますが、当初は、市町村や家づくり関連の民間企業が行うイベントでの「木工教室」の出席依頼が中心でした。そのイベントは、年齢関係なく、家族連れが多く、未就学児や小学生が中心でした。

そんなある時、小学校の先生がイベントに来られて「小学生向けに授業をしてもらえますか？」と言われ、それをきっかけに「森の寺子屋」（森林教室）を開催しました。森の大切さをわかってもらうことができ、評判も良かったようのでこの教室は継続していました。一方で私たちは、これらを継続していても森林組合職員の増加にはつながっていかないという感じもありました。そのため、県や市町村に何か対策はないかと相談したところ、中学生は「14歳の挑戦」、高校生は「インターンシッ



「それぞれの年代で森林に携わる」活動コンセプトイメージ

プ制度」があるのでやってみてはどうか？という提案をもらいました。

これをきっかけに「STEP3」「STEP4」の活動を加えることにしました。また最近では、SDGsを掲げている企業から森づくりをしたいといった要望が増えてきており、「STEP5」の活動も多くなってきました。

今回は、「STEP4（高校生との交流イベント）…実際の森に触れる」のうち、「高校生インターンシップ」について紹介します。

1日体験学習で森づくり指導

私たちは、管内で唯一農林系の授業がある富山県立桜井高等学校土木科2年生によるインターンシップの受け入れを、富山県と一緒にしています。今年度は7月2日（火）に開催し、2名の生徒が参加しました。

体験学習のスケジュールは下記の通りです。

- 9:00～9:20／富山県の森林・林業の概要（座学）
- 10:00～11:30／海岸林におけ

る森林整備（現地見学）

- ・森林病害虫防除事業について
- ・海岸林造成事業について

- 11:30～13:00／移動、昼食

- 13:00～14:15／森林整備における機械等（体験学習）

- ・富山県林業カレッジの概要説明

- ・チェーンソー、ハーベスタ体験

- 15:00～15:30／木材加工場見学、チェーンソーによる丸太切り体験

- ・フルハーネス・パワーアシストスーツ体験

- 15:30～16:00／無花粉スギ「立山森の輝き」苗畑見学

VRチェーンソー体験

VR（バーチャルリアリティ）シミュレーターは、三次元空間で実際の伐木技術を学びながら、チェーンソーによる作業の危険性や事故を未然に防ぐための正しい手順を体得することができる、最先端の教育ツールです。

富山県林業カレッジの協力をいただき、今回は林業労働災害VR体験のうち、「伐木作業中の災



VRハーベスタ体験（富山県林業カレッジ）
生徒はすぐに一連の操作をマスターした

害事例（幹割れ）、「切り捨て間伐の災害事例（幹の跳ね上がり）」を体験してもらいました。

VR体験は、若い人よりベテランの人のほうが怖がられるそうです。それは、ベテランの人が過去に体験した危なかったことや、実際に目の当たりにした事故などを

思い出し、恐怖がわくのだそうです。その思い出した話を語り継ぐことで交流が生まれ、現場での声掛けなどのコミュニケーションにもつながります。

一方、若い人はゲームなどで慣れていることもありますし、経験がないため、それほど怖がらない

とのことでした。

体験した生徒は「あまり林業や林業機械のことは知らなかったんですけど、VRは自分が作業をやってみるみたいな感じで楽しかったです」、もう1人の生徒も「結構迫力があってよい体験ができました」と、やっぱり2人ともそれほど怖がっていない様子で飄々と感想を聞かせてくれました。

今回はいまでもでしたが、過去には、大きな驚きの声を上げる生徒も見受けられました。



実際のチェーンソーを使った丸太切りにも挑戦

VRハーベスタ体験

ハーベスタシミュレーターは、林業機械の操作をリアルに再現した訓練用のシステムで、プロのオペレーターが使用するコントローラーと同じものを用いて、安全かつ効率的に操作技術を習得できるツールです。

このシミュレーターにより、実際の作業を行う前に操作感覚を掴むことができ、将来の現場作業に向けて自信をつけることができる



フルハーネス・パワーアシストスーツ体験

ものです。

パソコンに操作レバーを接続し、その操作レバーを使ってパソコンの画面上でハーベスタを操作するもので、伐倒、造材を疑似体験しました。

デジタルゲーム的な要素が大きいかともあり、私たちが説明すると生徒たちは楽しみなが、すぐに伐倒く枝払い玉切りく集積という一連の操作ができるようになっていました。ちなみに私たちも後でやってみましたが、普段、ハーベスタを運転していないこともあって生徒たちのようにはうまくいきませんでした。

チェーンソーによる 本物の丸太切り体験

VRシミュレーターでの仮想体験を行った生徒は、伐採作業員が使うイヤーマフ付きヘルメットや空調服、チャップスを装着した上で、本物の丸太を玉切りしました。最初は、腰が引けてしまってたが、なかうまうまいかない様子でしたが、だんだん上手になっていきました。怪我もなく、丸太を切る体験ができました。

生徒たちは、輪切りの切れ具合を見比べながら、積まれた丸太の前で記念撮影をしていました。

フルハーネス・パワー アシストスーツ体験

今年初めての試みで生徒には大きなタイヤをまずは何も着けずに持ってもらった後、アシストスーツを装着して同じように持つてもらいました。生徒からは、「軽っ!」という意見と、「あんまり変わらない」という意見が出ました。

またハーネスを装着してもらい、みんなで生徒をロープで引っ張り上げる高所体験もやってみました。

森林・林業に もっと携わってもらいたい

「STEP4」の高校生のインターンシップについて紹介しましたが、この活動を通じて森林・林業関係の仕事に就いた生徒は、残念ながら今のところおられません。

一方、今年度体験学習を対象に行ったアンケート調査で「将来どのような仕事に就きたいと思いませんか?」という質問に対して1名の生徒が林業会社や森林組合等の職員(現業・事務)という回答してくれました。

また昨年、偶然にも同じ高校の

卒業生が森林組合の作業班として勤務されました。現在は、保育施業班に所属し、無花粉スギの植栽く下刈りをはじめ、除伐、間伐などの作業をされています。

本人に話を聞いたところ「先輩方は人柄も良く、尊敬できる人が多いです。特に上司の班長は、仕事の段取りをテキパキとされ、仕事と休みのメリハリがあつて、毎日学びが多く楽しいです」とのことでした。

高校生の1日体験学習を通じてすぐに林業への就業につながるわけではありませんが、これらの活動を周囲に伝えてもらうことで、たまたま自然が好きなが、森林・林業に興味を持ってくれる機会は増えていくのではないかと考えています。

今後、イベント内容がもっとおもしろいものになるように考えながら、1人でも多くの方が森林・林業関係に携わってくれたらいいなと思っております。

*まとめ

魚津地区林業研究グループ協議会
会長 慶伊靖浩

事

高校生等の林業就業体験等

例

少人数体制できめ細やかな指導 実体験の場を提供し、就業意欲を高める 愛知県指導林家連絡協議会「愛知県」



慎重に。培養が完了したシイタケ菌床の除袋作業中

指導林家による
長年にわたる滞在型研修

愛知県では、高度な知識、技術
および実践力と熱意を持ち、率先
して近代的林業経営に取り組み、

地域の林業振興に貢献している林業経営者を「愛知県指導林家」(以下、指導林家)として昭和56年以降、知事が認定しています。その指導林家で構成される愛知県指導林家連絡協議会(以下、協議会)は、昭和56年に、会員の資質の向上と林業後継者の育成を図ることを目的に設立されました。現在は指導林家24名で構成されています(令和6年4月1日時点)。

協議会では、設立当初から活動目的である林業後継者育成のため、高校生を対象とした林業体験学習を実施しています。

愛知県内には森林・林業に関する科目・コースを持つ県立高校(以下、林業関係高校)が3校あります。協議会では、主にその3校に在籍する生徒を対象とし、学校が休みの時(主に夏休み、冬休み)

を利用して、生徒が指導林家のもとに滞在して行う研修を実施してきました。その内容は、造林・保育、除・間伐や伐木・造材、製材、きのこ栽培などと幅広く、それぞれの指導林家の専門において、それぞれの生徒の学習目的に合わせた内容を体験できるようになっています。1回の体験で受け入れる生徒数は原則3名以内としており、少人数のため、きめ細やかな指導で、生徒1人1人がしっかりと体験できるようになっています。

宿泊研修を一部再開し、 対象生徒を拡大

コロナ禍では、宿泊での受け入れは中止し日帰りのみの実施でしたが、今年度から一部の指導林家で宿泊研修を再開しました。また、冬休みの体験学習では、林業関係



約 12 年生スギの枝打ち体験。生徒は若木の成長ぶりに驚いていた

高校以外の県立高校（普通科・工業科など）も新たに対象とし、参加者を募集しました。

その結果、夏期には 3 名の指導林家のもとで林業関係高校 2 ～ 3 年生 6 名と、冬期は 4 名の指導林家のもとで林業関係高校 1 ～ 2 年生 6 名、工科高校 2 年生 1 名の生徒を受け入れました。

林業関係高校からの参加は、将

来林業や木材加工業の職に就くことを視野に入れている生徒が多く、繰り返し体験に参加してくれるケースが多くなっています。

昨年に引き続き枝打ち体験に参加した生徒は、年 2 回の体験学習で保育管理をしているスギが通直に育っているのを見て、1 年間で木の成長に驚いていました。

工科高校生徒の参加も

今回参加してくれた工科高校の生徒は、普段の学校生活で林業に触れる機会がなかったことから、体験が自分の人生経験としてプラスとなると考え、参加を希望したとのことでした。

また、機械科で学んでいることから機械に興味があり、チェーンソーに強い憧れがあるので、チェーンソーを使って作業してみたいという思いがありました。今回の体験場所である東三河の山間部から離れた尾張地区からの参加のた



工科高校生徒のグラッブル操作体験。失敗の繰り返しだったが、最後には丸太をつかむことができた

め、宿泊を伴う学習での受け入れとなりました。生徒 1 人での参加でしたが、ちょうどクリスマスの日と重なり、夜はイターンで林業経営を行う指導林家のもとに集まった地元の方々と触れ合う機会も得られました。

1 泊 2 日の体験を通して、山間部で暮らす個性豊かな方々と交流し、山間部での生活を垣間見る機会となったことと思います。

時間をかけて丁寧に指導 チェーンソー伐倒体験

チェーンソーを用いた伐倒や造



初めての伐倒体験。1つ1つの動作をゆっくり丁寧に進めていく

材作業、枝打ちなどについては、林業関係高校の9名と工科高校の1名の生徒が体験しました。林業関係高校の教育課程では学校林等でチェーンソーを使用する機会もありますが、チェーンソーを体験することなく卒業となってしまうケースもあり、指導林家の体験学習が初めてのチェーンソー体験となる生徒もいます。

体験では、ヘルメットや防護着の着用等安全面には十分配慮しつつ、少人数の利点を活かし、道具の扱い方をゆっくり丁寧に指導しているため、初めての生徒でも無理なく実施することが可能です。またチェーンソーを扱ったことがある生徒も学校の実習ではチェーンソーで木を伐倒することはな

いため、林業に興味のある生徒たちのさらに学びたい気持ちに添えることのできる貴重な体験の場となっています。

工科高校の生徒も、もちろん初めてのチェーンソー体験となりましたが、指導林家からマンツーマンでゆっくり丁寧に指導を受け、2日目には2本の木を伐倒しました。

他にも薪づくりやグラップルの操作体験など2日間で様々な体験をしてもらいました。体験後のアンケートでは、林業関係の会社への就業を希望するとの回答があり、林業を魅力ある仕事として捉えるきっかけとなったのではないかと思います。



適切な受け口・追い口をつくるため、チェーンソーの刃の上に水準器を置き水平の具合を確認



チルホールを引く大変さも体験

製材、きのこ生産などの体験も

夏期の体験では菌床シイタケの



送材車付帯のこ盤で丸太から挽いた板を、必要な幅に切断する作業の説明を受ける

生産、冬期の体験では製材についてそれぞれ1名の生徒が体験しました。

菌床シイタケの生産では、培地づくりから菌床の除袋、浸水、シイタケの収穫、販売のための包装まで生産に関わる作業をひと通り体験します。菌床栽培の現状や林業とのつながりを理解してもらう機会となりました。除袋作業では、袋に付着している茶色の水（分解

水）が酸性で、皮膚に付くと肌荒れを起こすことがあるため、生徒は指導を受けながら慎重に作業を進めていました。

製材工場では、丸太の皮むきから一連の製材工程を体験し、その後、当工場で製材した材を使用している施設の見学なども行いました。この生徒は、夏休みに別の指導林家のもとで枝打ち、巻枯らし間伐、伐倒作業などを体験してお

り、造林から木材生産や製材まで、林業の一連の行程を学ぶことができました。

林業体験学習参加者の就業状況

令和3～5年度の3年間で、延べ20名の指導林家のもとで、延べ36名の生徒が林業体験学習に参加しました。またこの3年間に卒業した林業体験学習参加生徒25名のうち9名が、県内外の森林組合や林業経営体、製材工場、地方公共団体（林学職）への就職、林業大学校等への進学をしています（表）。

先述のとおり、林業・木材関連分野への就業を視野に入れている生徒が繰り返し体験学習に参加していることから、就業前に実際に現場を体験する機会を提供することで、林業・木材関連分野への就業の後押しとなっていることと思われる。

裾野を広げて後継者育成を

また、学生時代、全く違う分野で学び、林業・木材関連分野に就

表 令和3～5年度卒業生の進路状況
(体験学習参加生徒)

森林組合	3
林業経営体	1
木材加工業者	2
地方公共団体林学職	1
その他業種の会社	10
林業大学校等	2
その他進学	5
その他	1
合計	25

業している方も多いことから、これからも林業関係高校以外の高校生徒にも広く参加を呼びかけ、林業の魅力に気づき、将来林業を仕事として選択する生徒が1人でも多くなればと考えています。

本協議会では、高校生以外にも小・中学生を対象とした林業体験学習も実施しています。引き続き、将来の担い手となる子供たちに林業の魅力を伝える場を増やしていきたいと考えています。

*まとめ

愛知県指導連絡協議会事務局
愛知県農林基盤局林務部林務課

事

高校生等の林業就業体験等

例

森林組合や町役場と取り組む 林業現場を肌で感じる研修会

かみやま林業振興会「徳島県」



受け口づくりにもチャレンジ！
生徒が上手にできると、指導側にも笑みがこぼれる

神山町の農林業と
かみやま林業振興会

神山町は、徳島県のほぼ中央に
位置する人口約4700人、総土
地面積1万7330ha、森林率

約86%の町です。民有林総数は
1万4470ha、うち約71%が人
工林で、その9割をスギ・ヒノキ
が占めています。また、所有者規
模別で見ると、10ha未満の所有者
が約95%と、小規模・零細な所有
構造となっています。主要産業は
農林業で、日本一の生産量を誇る
「すだち」のほか、菌床栽培によ
る生シイタケ生産も盛んです。

かみやま林業振興会（以下、当
会）は、平成5年に町内4つの林
研グループが合併し誕生しました。
現在の会員数は56名で主に町内に
山林を所有する者で構成されてい
ます。活動内容については、スギ
天然絞丸太の生産販売やミツマタ
栽培に取り組んでいます。スギ天
然絞丸太は京都・北山、奈良・吉
野から天然絞の苗木導入を契機と
して、これまで約5万本を育成し、

床柱に加工して販売しています。
ミツマタ栽培については、平成
24年春より約3万2000本を植
栽して、原木を出荷しています。

会員の高齢化もあり、若手会員
の確保や技術の継承などが課題と
なっています。また、森林資源の
充実した神山町において、近年、
自伐林業を営まれる方が増えたり、
新たな林業事業体ができたりして
いますが、まだまだ林業従事者は
不足しており、地域林業の振興と
いった面からも、林業後継者の育
成が必要な状況となっています。

継続する 林業体験現地研修会

このような背景から、将来の林
業従事者の育成に向けた取組とし
て毎年、徳島中央森林組合（以下、
森林組合）や町役場の協力のもと、



研修前の説明を真剣に聞く生徒たち

座学と土場見学

地元の徳島県立城西高等学校神山校（以下、神山校）の生徒を対象とした林業体験現地研修会を開催するようになりました。

今年度の研修会は、11月28日（木）、環境デザインコース2年生13名を対象に実施しました。

当日、生徒は森林組合に集合し、当会会長より挨拶や研修の趣旨説明を聞きました。その後は、県林業普及指導員による県の林業施策や、高性能林業機械による素材生



徳島中央森林組合の土場を見学。原木市の説明を受ける



熱心にチェーンソー操作の説明を聞く生徒たち

産システムを学び、また、森林組合職員からは木材市場の概要説明を受けました。それぞれ専門分野の指導者らで本研修会を支えています。

次は森林組合の土場見学に移ります。土場においては、木材が搬入された際のはい立て作業や値決めの方法、丸太の樹種や良材の見分け方などの説明を受けました。実際に丸太を目の前にしているこ

ともあり、生徒たちは興味深く話を聞いているようでした。

チェーンソーで丸太切り体験

その後、搬出間伐を行っている現場に移動し、3班に分かれ研修を開始。チェーンソー操作は当会の会員が指導を務めました。

体験してもらうのは、丸太の輪切りです。今回参加した生徒は、チェーンソーを用いた伐木等

の講習を受講していることもあって、最初からスムーズに輪切りを行える生徒もいました。ただ、生徒の多くは、エンジンの始動の仕方からチェーンソーの持ち方、輪切りをする際の姿勢や立ち位置まで、会員から丁寧かつ熱心な指導を受けながらのチャレンジです。最初はとまどいながらも、複数回繰り返しることにより、上手にチェーンソーを扱えるようになってい

った生徒の満足げな様子が印象的でした。

「先達にもっと学びたい」と再度チェーンソー体験を申し出る生徒もあり、会員もその熱意に呼応し数人ではありましたが、当初予定していなかった伐倒の際の「受け口」づくりも指導することに。生徒の積極的な学びの姿勢に会員たちも充実した想いを抱いたようです。

フォワーダとグラップル体験

高性能林業機械の操作体験については、森林組合の作業班の方に指導していただきました。

グラップルの操作体験では丸太の円盤をつかみ、重ねていく作業に挑戦です。なかには、作業班の方が口頭でアドバイスするだけで、円盤を高く積み上げる生徒も見受けられ、うまく操作できる生徒や、そうでない生徒もあり、それぞれの個性が見られました。

フォワーダの操作体験は、据え付けのグラップルによる丸太の積み込み作業で、グラップルの操作方法や丸太をつかむ位置の指導を受けながら、慎重に作業を行って



フォワーダのグラップル体験。
指導を受けながら丸太を荷台に載せる



グラップル操作体験。
指導員が横に付かなくても、上手に積み上げる生徒もいた

いました。

研修会の最後には、現場状況の関係もあり生徒個々の体験は割愛しましたが、作業班の方が行うプロセッサによる造材作業を全員で見学し、研修を終了しました。

体験したからこそ… アンケート回答

研修会終了後、生徒にアンケートを実施しました。

▼「今回の研修を受講する前に「林業に関わる仕事をしたい」と思っていましたか」の問いには、

① 思っていた…1名

② ある程度思っていた…2名

③ 思っていなかった…10名

①②合わせても3名しか「林業」を仕事先として考えていなかったようですが、研修終了後での同様の問いには、

① ある程度思った…6名

② 思わなかった…4名

と「林業」に前向きな回答をした生徒が倍増していました。

一方で、研修前に「林業に関わる仕事をしたい」と思っていた1名が研修後にはいなくなっており、また、3名が未回答と実際の林業



研修を終えて。生徒も関係者も充実の表情

現場を肌で感じるにより、考えが変わったり、簡単には答えられなかったのではないかと思うところでは、

▼「今回の研修は将来のために役に立ちましたか」には、

①大変役に立った：6名

②ある程度役に立った：7名

▼「今回の研修は理解できましたか」の問いには、

①たいへんよく理解できた：7名

②ある程度理解できた：6名

と生徒全員から前向きな回答を得ることができました。

生徒たちの感想としては、「とてもわかりやすく接してくれて、やりやすかった」、「教え方がとてもよかった」、「もっと研修をしてみたい」、「他にもいろんな機械を使ってみて林業を知りたい」など、肯定的で前向きな意見が多く、会員にとっても励みになるものでした。

これから進学や就職を考えていく高校生にとって、有意義な研修になったものと感じているところです。

若者の元気は林業の活力

徳島県では、林業後継者不足の解消と即戦力となる人材育成を目的に、平成28年度から「とくしま林業アカデミー」（以下、アカデミー）が開校されており、これまで神山校から11名の人材がアカデミーを経て林業界へ巣立っています。

アカデミーでは、例年神山校の生徒を対象としたオープンキャンパスが開催されており、アカデミー生が指導役として、チェーンソー操作やフォワーダの走行体験などを研修所内で実施しています。

一方、当会の研修会は林業現場で開催します。森林組合の方や林家個人とのかわりといった点も含め、実際の林業の場に触れる機会として、神山校生の森林・林業への理解をより深めることに役立っているものと考えています。当会の活動が神山校生のアカデミー進学への後押しの一助となり、ひいては林業後継者の育成・確保に貢献できているのであれば、たいへん喜ばしいことです。

今回の現場はやや標高が高く、厳しい寒さの中での研修となりましたが、昼食休憩中に生徒たちが山の斜面をかけずり回る姿を見て、その若者の元気と活力こそが、現在の山村・林業に必要なものだと痛感したところです。

神山町の森林サイクルの確立と地域の活性化に貢献するためにも、自分たちの持つ知識や経験、技術等を次世代の若者へつなげていくよう、今後も人材育成への取組を継続していきたいと考えています。

＊まとめ

かみやま林業振興会事務局

事

高校生等の林業就業体験等

例

やりがいや面白さを体験してほしい 地域の貴重な“人財”を林業の世界へ！

球磨地区普及・林研グループ連絡協議会「熊本県」



プロセッサ操作の研修風景。
熱心な指導に生徒も集中

人吉球磨地域と 当協議会の概要

人吉球磨地域は熊本県の南東部に位置し、東は宮崎県、南は鹿児島県に隣接しています。人吉市を

中心に1市4町5村からなり、周囲は九州中央山地に囲まれ、地域の中央を東西に貫流する日本三大急流の1つである球磨川や18年連続水質日本一を誇る川辺川など、自然豊かな地域となっています。

人吉球磨地域の森林資源としては、森林面積約12万haのうち民有林は約10万haと県全体の民有林面積の4分の1を占めており、人工林面積は県平均61%に対して67%、林業生産額も約29億円で県内有数の林業地域となっています。

球磨地区普及・林研グループ連



伐倒訓練機で受け口の作り方について講師の指導を聞く

絡協議会（以下、当協議会）は5つの林研グループで構成されています。各林研グループでは地域に根差した活動を継続している一方で、他の地域と同様に、少子高齢

化による担い手の不足も喫緊の課題となっています。

そのような中、当協議会では、林業後継者育成を目的として各林研グループや林業関係者の協力をいただきながら、地元高校に対する“人財”確保に向けた事業を展開しています。

地元高校を対象とした 林業体験型の研修

今回の事業の対象である熊本県立南陵高等学校（以下、南陵高校）は、人吉球磨地域のほぼ中央に位置する球磨郡あさぎり町にある全日制の高校で、普通科をはじめ総合農業科や生活経営科、食料科学科といった学科があり、地域社会のニーズに応える学習活動が行われています。

とりわけ、総合農業科では、自然と調和した暮らしを学ぶことを理念に、体験活動を中心としたカリキュラムとなっており、2年次からはコース選択制（林業専攻は「環境コース」、3年次は林業専攻を含む5専攻から選択するシステムとなっています）。

当協議会では、コースを選択す

る2年生を対象に、「林業」を仕事とするやりがいや面白さを体験してもらいたいとの思いから、例年、間伐研修と高性能林業機械操作研修を実施しています。

安全第一！ 間伐研修（基礎編）

間伐研修は、2日間にわたって実施します。1日目に南陵高校の実習室で座学を行い、その後、同高校の敷地内でチェーンソーの扱い方を徹底的に練習します。

これは、2日目に予定している南陵高校演習林での間伐の実践に備えて、安全に伐倒を行うために実施するものです。

12月中旬、1日目の研修です。索道の運営やチェーンソー等の機材を販売しておられる第一索道商



何度も練習する生徒。
伐倒訓練機が受け口だらけになった！

なかなか難しく生徒たちは何度も挑戦していました。研修を終える頃には丸太が受け口だらけになってしまい、少しかわいそう

事株式会社平野代表からチェーンソー取り扱いの基礎や安全な操作方法等について講義していただいた後に、午前は1班、午後は3班に分かれて練習を開始しました。まずは、土台に設置した丸太を輪切りにします。まっすぐに切るのには意外と難しく、生徒たちは納得のいくまで真剣に取り組んでいました。

そして、いよいよ伐倒訓練機による受け口、追い口の練習です。生徒1人につき1回以上は実施してもらったこととしました。目標は、①水平切り、②斜め切り、③正確な受け口・追い口をマスターすることです。前述した丸太の輪切りと比べると格段に難しくなります。水平切りと斜め切りをうまく合わせることで、上手に受け口を作るコツですが、

に思いましたが、全員が怪我なく無事に終了することができました。2日目の間伐の実践では、足場も悪くより高度なチェーンソー操作が求められます。生徒たちには、安全作業を徹底してもらい、練習の成果を発揮してほしいと思います。

安全第一！ 間伐研修（実践編）と 高性能林業機械操作研修

間伐研修（基礎編）の2日後、南陵高校から北に車で30分ほどの場所に位置する演習林で、総合農業科の2、3年生を対象に間伐研修（実践編）と高性能林業機械操作研修を実施しました。

当初、林業専攻の生徒のみを対象としていましたが、同科農業土木専攻の生徒も参加したい！とのことで、飛び入りで参加してもらい、2年生17名、3年生15名の総勢32名と大人数での開催となりました。

午前と午後のそれぞれで間伐（2班）と、プロセッサ、スイングヤーダ、フォワーダ（各1班）の4班体制として1班4〜5名で

実施。生徒の人数が多く時間的な制約もあるため、安全を確保しつつスムーズなローテーションがカギとなります。

間伐は林研グループ会員2名と熊本県林業研究・研修センター職員2名が2班に分かれて実施。高性能林業機械操作は地元で素材生産を行っておられる九州横井林業株式会社の作業員3名が講師です。皆さん林業に長年携わっておられるベテランばかりです。

さて、研修に入り、間伐研修（実践編）では1人1本程度を伐倒します。現場は道路下で、直径20cm、樹高12mのヒノキ、間隔はやや狭く枝も張っているため切捨間伐するには少し難しい林分です。急峻な地形のため立木まで行くのも一

苦労でしたが、ようやく到着すると講師からの説明を受けていよいよ間伐を開始。生徒たちは悪戦苦闘しながらも、練習どおりに受け口、追い口を作り、想定していた方向へ上手に倒していました。中には、すでに現役作業員のように伐倒する生徒もあり、話を聞くと、「お父さんが林業に携わっていて普段から家でも手伝っている。将来は林業の仕事で父を超えたい！」とのこと。即戦力となる頼もしい担い手を発見した瞬間でした。

次に、高性能林業機械操作研修です。操作講師の皆さんは昨年も担当していただいております。生徒への教え方も慣れていらつしやいます。まずは、講師から基本的な説明を受けたあとに早速操作を開始します。

プロセッサでは、最初は大きく揺れるヘッドに戸惑いながらも、最後は丸太をつかみ、玉切りする工程もス

ムーズでどんどん上達していきました。生徒からは「難しいけど、ゲームのように面白いです！」との声がありました。

スイングヤーダはワイヤーロープを玉掛けする生徒と機械を操作する生徒に分かれて行います。ワイヤーロープを設置するために斜面を登ったり、下りたりする生徒は大変そうでしたが、苦労して重い木材を土場に引き上げた時は双方とも達成感に満ちた表情をしていました。

次は丸太をグラップルでつかんで荷上げ、フォワードで走行、グラップルで荷下ろしまでを操作します。



父の手伝いをしているという生徒の伐倒はすでにベテラン級！



ワイヤーロープの玉掛けを担当する生徒は大変だったスイングヤーダ体験



プロセッサ操作研修。
ゲームのように？ どんどん操作が上達した生徒もいた



フォワーダ操作は、荷上げ、走行、荷下ろしに挑戦

「研修前に、林業に関わる仕事をしたいと思っていましたか？」という質問には、32名中21名が「思っていないかった」と答え、その21名のうち「今回の研修後に、将来林業に関わる仕事をしたか？」という質問には、「思った、ある程度思った」が17名と、これまで林業への興味がなかった生徒に対しても一定の成果があったと思いま

す。今後は、1年生の早い段階から林業に興味を持ってもらいうような内容も検討していきたいと考えています。冒頭でも触れたように、担い手不足は深刻な課題ですが、一方で当地域には各林研グループをはじめ、多くの林業事業体や関係団体があり、心強いバックアップがあります。当協議会としては、林業後継者の育成に向けて魅力ある研

＊まとめ
球磨地区普及・林研グループ
連絡協議会
事務局 山部貴史

修を実施していくとともに、地域の貴重な“人財”を林業の世界へつなげていけるように、各林研グループや林業関係者とともに積極的に活動を展開していきます。

作業道が狭く難しそうでしたが、プロセッサと同様にすぐにコツをつかんだようで楽しみながら操作していました。
最後に生徒代表からの感想と講師からの講評をいただき、集合写真撮影して無事に終わることができました。今回の研修の実施に際し、事故もなく生徒一人ひとりに丁寧に指導いただいた指導者の方々には、この場を借りて御礼申し上げます。

林業関係者とタッグを組んでこれからも

今回の研修を終えて、生徒の1人当たりの研修時間が短くなつてしまふ物足りない思いをさせてしまったものの、生徒からは「楽しかった」「や「またやりたい」といった肯定的な意見が寄せられました。

また、研修後のアンケートで、「研修前に、林業に関わる仕事をしたいと思っていましたか？」という質問には、32



研修終了！
プロセッサの前で集合写真

事

高校生等の林業就業体験等＋出前型授業

例



ドローン操縦方法を教わる1年生

地域林業を守る 高校生の後継者育成 1～3年生のICT、チェーンソーアート、 ブナ林、高性能林業機械研修

北信州の森林と家をつなぐ会「長野県」

北信州の 家・山・まちづくり

当会は長野県北部の北信地域（中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村）を活動地域として、北信州の自然素材をふんだんに活用した健康的で丈夫な家づくりと、森林整備により健全で丈夫な山づくりを促進し、自然豊かな北信州のまちづくりを創造することを目的として発足しました。北信地域の林業団体を取りまとめる高水林業協議会の林業グループ部会に所属しています。発足当時はメンバーも40代と若く森林整備等も積極的に行っていました。しかし、60代となった現在では皆が重責を担う立場に就い

ており、なかなか直接作業を行うことはできなくなりました。そのため、会の主な活動は小中高校生を対象にしたイベント参加や体験による研修等が主になっています。メンバーそれぞれが多忙の中ではありますが、会の運営は地道に進めています。

19年続く 農林高校への指導

全林研による林業後継者養成事業での長野県下高井農林高等学校（以下、下高井農林高校）の指導も、平成18年から続けており、今年で19年となります。

当校について少し触れましょう。2年前の令和4年度の本活動事例集では、下高井農林高校のグリー



操縦体験。慣れてくると、高く飛ばすことができる生徒も

1年生は、初めに資料によりドローンの活用事例の説明を受け、森林施業の成果確認、DEMデー

1年生 ICT研修

1年生（60名程度）には林業系の関心を深めるためにICT研修として、ドローン計測についての講義と操縦体験を行いました。ICT研修は北信州森林組合に指導を委託しています。

「全林研による出前型授業」 現場の林業・ スマート林業を学ぶ

今年度は、当会のICT研修に

とドローンを見えなくなるほど高く飛ばす生徒もいました。こうしたことを通じて、森林・林業に関心を持ってもらい、コース選択で環境創造コースに進んでくれればと思います。

先立ち「全林研による出前型授業」としてスマート林業の講演が行われました。講師として栃木県の有限会社高見林業専務取締役の齋藤くにお先生さんが派遣され、林業の基礎知識からスマート林業、自社でのドローンの活用事例や下刈り省力化のことが紹介されました。現場人の実践に基づいた講座は、生徒たちにとって、たいへん新鮮

ンデザイン科に森林活用コースと地域資源活用コースが設けられたことを紹介しました。その後、大幅な学科再編が行われ、現在、新学科として「地域創造農学科」1つとなっています。

1年生はコース共通で、2年生と3年生では、「産業創造コース（農業・園芸系、畜産・動物系、食品・調理系、家政・栄養系）」と、「環境創造コース（林業・森林系、土木系、造園系、観光系）」に分かれています。

新学科では、1年生は地域学習

として風土・文化・産業について学ぶ「北信州学」や、地域連携によるインターンシップがあり、2、3年生では担い手育成に向けた現場実習へと導くデュアルシステムの確立を目指しています。

当会で行う研修は、「北信州学」の一環であり、またインターンシップに関連するものと位置づけられています。

このために、「下高井農林高等学校地域連携推進協議会」が設けられ、私も委員に委嘱されています。



全林研による出前型授業。
林業の基礎やスマート林業など、講座内容は多岐にわたった

で、皆が真剣に聞き入
っておりしました。

2年生 地域林業の基・ ブナ林研修

環境創造コースの2
年生には、地域の山林
や林業を知ってもら
うためにブナ林の研修を
行っています。なべく
ら高原森の家のインス
トラクターの案内で鍋
倉山周辺を観察しまし
た。

昭和20年代後半から40年代後半
にかけて、当地域はブナ等の広葉
樹の一大産地となっていました。



講演する高見林業専務取締役の齋藤州生さん



推定樹齢400年以上と言われたブナ「森太郎」の
倒伏跡を観察した

広葉樹のほか、ツガやモミなどの
針葉樹も生産されていました。長
野電鉄の信州中野駅を取り囲むよ
うに飯山管林署の貯木場やいくつ
もの製材所がありました。

飯山線の飯山駅周辺も同様
でした。また、中野市には
生産されたブナを利用して
ベニヤ工場やフローリング
工場がありました。

現在でも北信地域には製
材所が多くあります。そし
て、総人口8万人程度の地
域に、人工乾燥機を持つ製
材所が2カ所もあるのは、

過去に製材が盛んだっ
たことの名残でもあり
ます。

そうした地域林業の
基となったブナ林を学
習してもらうために、
このブナ林研修を行っ
ています。

当日は、ブナの巨人
と言われた「森太郎」
の倒伏地を訪れるなど
しました。

3年生 チェーンソーと 林業機械体験研修

①チェーンソーア ートづくり

3年生には職業選択
のために、チェーンソ
ーの取り扱いに少しで
も慣れてもらおうと、
プロを招いてチェーン
ソーアートづくりを体
験してもらいました。
21名の生徒がいまし
たが、割り振られた予算
もあり、10名に絞って
行われ、午前、午後の



それぞれのクマを前に達成感の笑顔



ハーベスタによる枝払い造材作業



スイングヤーダによる集材作業

1日かけての研修になりました。
最初は怖がつて腰が引けている生徒が多かったのですが、午後になるとチェーンソーの扱いにも慣れてきて、スムーズな動きで制作をすることができるようになりました。

今年はクマを作りました。出来上がりはそれぞれの個性が表れ、どの作品も誰が見てもクマとわかる立派なチェーンソーアートとなっていました。生徒たちはつくり

上げた達成感を味わい、チェーンソー操作に親近感を覚えたことと思います。

②フォワーダ、ハーベスタ、スイングヤーダ操縦

3年生のもう1つの研修である高性能林業機械操縦体験には、21名全員が参加しました。

最初に、ハーベスタによる伐倒作業を見学しましたが、初めて見たこともあり生徒全員が驚いてい

ました。そして、7名ずつの3班に分かれて、フォワーダのグラップルクレーンによる積み込みと荷下ろし作業、ハーベスタを使つての枝払い造材作業、スイングヤーダによる集材作業を体験しました。土木系を目指す生徒たちには、どの機械の操縦も手馴れているように思えました。

21名と多かつたため、全員がすべてを操縦するのに時間がかかり、予定時間をオーバーしていました

が、生徒たちは満足しているようでした。

後継者育成 継続することの意義

下高井農林高校では、この研修を通じて地元森林組合のほか、林業事業体への就職や長野県林業大
学校へ進学するなど、これまで後
継者育成としての実績を残してき
ています。

今年は、生徒1名が地元森林組
合を希望し就職が決まつたと
聞いています。また、2年生
では、女子生徒1名が春秋2
回計5日間、北信州森林組合
にインターシップを受講す
るなど、本事業による成果は
大きなものがあると感じてい
ます。

地域林業の後継者育成にと
つて、本事業を継続すること
は大きな意味があり、今後も
継続できることを願っていま
す。

＊まとめ
事務局長 田中 忠

事

高校生等の林業就業体験等＋出前型授業

例

未来の林業を支える若い力！ 地域林業を盛り上げる体験研修

かどがわちよう
門川町林業研究グループ連絡協議会「宮崎県」



ドローン活用事例の説明に、
集中してパソコン画面を見る生徒たち

に、会社員や建設業、大工などの会員17名で構成され、平均年齢は30歳と比較的若いグループです。

門川林研の活動拠点である門川町は宮崎県の北部に位置し、日向灘ひゅうがなだに面しており、マリンアクティビティや釣り、キャンプなどのアウトドアが楽しめる風光明媚な町です。

また、三方を山に囲まれ、海と山に囲まれた環境でのびのびと暮らせる一方、隣接する延岡市と日向市にも近いので、マイカーがあれば暮らしに困ることはありません。

森林面積は9936ha、森林率は83%。このうち民有林面積は9920haで、人工林率は46%と豊かな森林資源に恵まれ、近隣の



林道沿いの草刈り作業の様子

美郷町、諸塚村、椎葉村を含め、林業が盛んな耳川流域に含まれています。この流域は、全国トップクラスの規模を誇る森林組合があり、多くの林業事業体、原木市場製材工場や木質バイオマス発電所があるほか、将来の林業の担い手を養成するみやざき林業大学校も

林業中心地・門川町と
門川町林業研究グループ

門川町林業研究グループ連絡協議会（以下、門川林研）は、平成7年に設立し、林業従事者を中心

あり、宮崎県の中核的な林業地域です。

門川林研では、設立以来、林業先進地への視察研修会や勉強会を実施するほか、林道沿いの草刈りや高校生を対象とした林業体験研修、町産業祭などのイベントにおいて小学生以下を対象とした木工教室を行うなど、様々な林研活動を行っています。

先輩から後輩へ 林業と高校生をつなげて

門川林研の活動において、担い



まずは、会員や生徒同士が協力して防護服を着用

手育成として、未来の林業を支える若い力の養成の柱となるのが、

宮崎県立門川高等学校（以下、門川高校）での林業就業体験（以下、林業体験研修）です。平成18年度から、チェーンソーや高性能林業機械を用いた林業体験研修を行っています。

門川高校は、宮崎県内では唯一の林業を学べる高校です。総合学科の栽培ビジネス系列で「森林科学」の必須科目があり、その後、林業を専攻した2年生、3年生に対して、「林産物利用」と「総合学習」の授業が行われています。

れています。

門川高校で活動するきっかけは、会員の多くが門川高校の卒業生で、当時の門川林研会長が門川高校のPTA会長を務めていたことから、「後輩たち（高校生）に林業の楽しさを感じてもらいたい！」「林業への興味を持ってもらいたい！」「林業と門川



玉切りの研修。マンツーマンで指導を受ける

高校の架け橋になりたい！」との熱い想いを当時の校長先生が受け止め、門川高校での林業体験研修が実現しました。以降、継続して活動しています。

ドキドキの チェーンソー・グラップル・ プロセッサ体験

令和6年度は、12月25日（火）に門川高校の実習広場で2年生を対象に、チェーンソーと林業機械操作研修を実施しました。

多数のチェーンソーやグラップル1台とプロセッサ1台を据えて、事前準備として会員の所有山林から切り出されたスギ4m材を数十本運び入れました。また、生徒たちに安全で楽しい研修にもらうことが何より重要であるため、入念なチェーンソーの目立てを会員全員で行いました。

いよいよ体験研修の時間です！23名の生徒が広場に集合し、会員の自己紹介の後、オリエンテーションとして、チェーンソーやグ



プロセッサ体験では四苦八苦！



グラッブル体験。スムーズに操作できる生徒が多かった

ラップル、プロセッサの機械の説明を行いました。その後、チェーンソー班、グラッブル・プロセッサ班に分かれて操作研修です。

チェーンソーの操作研修では、始動方法から玉切りまでの体験を行いました。

まずは、防護服の着用です。防護服は厚みがあり重たいため、着用に時間のかかる生徒が多数見受けられました。会員や生徒同士が協力し合い、防護服のベルトを締めれば準備は完了です。

その後、防護服の機能について説明をしました。万一、ソーチェーンが体に触れても

防護服の繊維が絡まることで、チェーンソーの動きが止まることを説明すると、驚いた表情を見せる生徒や「本当にそうなのか？」と疑問に感じている生徒など反応は様々でした。

次に玉切り研修です。最初はエンジンがかかることに苦労する生徒や、緊張で力んでしまい、なかなか上手く切れない生徒が多かったです。

しかし、会員によるマンツーマンの丁寧な指導を受け、再度挑戦してみると、エンジンを一発でかけることや木材をまつすぐきれいに切ることに成功する生徒が増えました。作業の開始時に聞こえていた「難しい！」「面白い！」などの声から、徐々に「楽しい！」「面白い！」という声に変化していきました。

グラッブルの操作研修では、木材をつかみ、回転させて横に移動させる作業を行います。こちらはスムーズに操縦できる生徒が多く、操作に慣れたら「楽しい」という生徒がほとんどでした。

プロセッサの操作研修では、木材をつかみ、適度な長さに玉切り作業を行います。木材をつかもう

とするとヘッドがぶらんと大きく揺れ、苦戦している様子でした。つかんで、切つて、積むという一見簡単な作業のように思えますが、いざ体験してみると、非常に操作が難しく生徒たちは四苦八苦している様子でした。しかし一連の体験を終え、「難しかったけど楽しかった」と、生徒たちは操作できたことへの達成感で笑顔をを見せていました。

「全林研による出前型授業」ドローンを学ぶ

今回の研修では、今年度からスタートした「全林研による出前型授業」も併せて開催されました。特別講師として全国林業研究グループ連絡協議会副会長の黒田仁志^{まさし}さん、美郷町林業研究グループ会長の中田昂希^{こうき}さんによる講座です。題目は「林業におけるドローンの活用事例」。ドローンを活用し地形や境界を簡単に把握することで、森林調査の効率化や森林資源情報の精度向上につながっていることなどを説明していただきました。

ドローンの活用事例を紹介する



黒田副会長の話を聴く生徒たち



生徒から研修の感想を聞く

林業を
盛り上げる
若い力を応援
の活動は、来年度で
長年続けてきたこ

ます（表）。
学校に6名進んでい
度に関わった林業大
路先として令和元年
す。また、新しい進
名、苗木業者1名で
名、木材産業会社10
は、林業会社2
名、森林組合4
名、木材産業会社10

＊まとめ
門川町林業研究グループ
連絡協議会 事務局

20周年目を迎えます。当該活動に
より、生徒が林業に興味を持つき
っかけづくりに役立っていると自
負しており、門川高校からも高い
評価をいただいております。
今後も林業体験学習を通して林
業に興味を持ってもらい、将来一
緒に門川町の林業を盛り上げてく
れる若い力を育んでいきたいです。

生徒への聞き取りと アンケート調査

ノートパソコンの前にぎゅっと集まり、生徒たちは中田さんの説明を熱心に聞いていました。

林業体験研修後、生徒に感想を聞いてみました。

チェーンソーについては、「防護服が重くて大変だったけど切るのが楽しかった」「切っている時

に木の良い香りがした」「某漫画のキャラクターのようで楽しかった」などユニークな感想もありました。

グラッフルとプロセッサの操作については、前述のように、「グラッフルの操作はスムーズにできた」に対し、「プロセッサはレバーやボタンが多く、複雑で難しかった」という声が多かったです。そのほか、「研修は緊張したけど楽しかった」などの声も聞きました。

「将来どのような仕事

に就きたいと思いますか」の問いに、「林業会社の職員や木材加工・流通会社等の職員」という生徒が10名弱（複数回答可）いました。

また、「今回の研修が将来のために役立ちましたか」の問いには、「大変役立った、ある程度役立った」が100%でした。

会員一同、熱心に取り組んできた価値を実感しています。門川高校によると、過去10年間の生徒のこれまでの進路は、林業会社2

表 門川高校の林業関係への卒業生進路先（過去10年間）

卒業年度	林業会社	森林組合	木材産業会社		林業大学校	苗木業者	生徒数（人）
			製材	木材加工			
H26			2				2
H27			1			1	2
H28		1	2				3
H29			1				1
H30			1	1			2
R01					2		2
R02							0
R03		1	2		2		5
R04		1			1		2
R05	2	1			1		4
計	2	4	9	1	6	1	23

A black and white photograph of a forest. In the foreground, a person wearing a white protective suit and a white hard hat is seen from the back, working on a large log. The background is filled with many tall, thin trees. A black circle containing the text '第2部' is positioned in the upper right area.

第2部

山づくり
人づくり
ものづくり
チャレンジ!

事

私たちのチャレンジ！

例

「ヨロイマツ」遺伝子の保存にかける夢

大田市林友会「島根県」

市民とともに
歩んできた活動

大田市は、島根県の東西の中心部に位置し、面積4万3000ha、人口3万3000人ほどの小さな市です。当市の世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」は地域の宝であり、日本はもとより世界に誇れる地域資源です。

大田市林友会は昭和40年に発足

し、現在の会員数は男性32名、女性5名の計37名。近年、林業に関心を持つ女性や若い男性といった人たちの入会もあり、先行きは明るいと感じています。

これまでの活動に「学習機の天板寄贈」があります。市産材アカマツを地元業者が学習機の天板として加工したものを市内の小中学校に40

枚を寄贈し、森林学習も行いました。また荒廃森林対策として「竹林整備とお楽しみ活動（竹炭づくりと竹筒ご飯づくり）」を市民参加型で実施しております。その他さまざまな取り組みをしている中で、今回はヨロイマツの遺伝子保存の活動についてご紹介します。



ヨロイマツの発見



接ぎ木による遺伝子の保存。クロマツ（抵抗性）の2年生の台木を使用

「ヨロイマツ」の発見

ヨロイマツは、アカマツ、クロマツの混種で独特な特徴を持った、全国のみならず世界を探しても大

机の天板寄贈





見事な年輪が現れているヨロイマツの長押

田市内のみで見られる極めて貴重な在来種のマツです。かつてはたくさん自生していた、建築用材として使われていました。しかし、松くい虫による被害で、すでに自生していないと諦められていました。ところが平成5年に偶然、3本の生存するヨロイマツを確認しました。しかし数年前にマツクイムシ被害で2本は枯損し、残り1本となっていました。その後、令



作業路開設地における皆伐山林での高性能林業機械作業の現地視察

和2年に新たな生存木を1本確認し、現在確認できている生存木は2本となっています。ヨロイマツには大きく2つの特徴があり、第1に樹皮の下側が反り返り、鍔の草ずりのような鱗片が幹の周りを一周しています。さらにそのような鱗片が木の上にむかって何段にも形成する、まるでヨロイを想像させる樹皮です。第2の特徴は、製材すると板目の面に美しい複雑な本目が現れること

です。

ヨロイマツの復活に向けて

残った2本の天然ヨロイマツを是が非でも後生に残すため、所有者の理解を得て数年おきに松くい虫被害予防薬剤の注入や周辺の不要木除去も行っています。また、平成11年から接ぎ木による遺伝子の保存にも取り組んでいます。

活着した苗は会員に配布し、それぞれの山に植えることになりましたが、余裕があれば希望者に頒布したいと考えています。島根県立緑化センターの指導のもと、これまで260本を育ててきました。台木はクロマツ（抵抗性）の2年生を使用し、穂木は接ぎ木で育てたヨロイマツから採っています。接ぎ木は割り接ぎにより行い、形成層を



大田市林業祭へ出店

うまく合わせるために接触面が動かないようにすることがポイントです。しかし、毎年50本程度を接ぎ木して、うまく活着するのは10本程度です。全滅の年もあり、さらなる技術向上に努めています。私たち大田市林友会は、このような希少なヨロイマツが見事に奇跡の復活を遂げたと、大きな声で誇らしく発表できる日を夢見て、日々遺伝子保存の研さんを積んでいるところです。

＊まとめ

会長 和田秀夫

事

私たちのチャレンジ！

例



間伐展示林での説明



ノコギリで丸太切りを体験



伐倒実演で山の作業の雰囲気を感じ



木の伐り方などについて説明

子どもも山主さんも 森林への関心を！

山を愛する メンバーが結集

武雄市の武内町は、佐賀県の西部に位置しており、町の面積は約25㎢、人口は約2700人の小さな町です。この町で活動している武内町親林会は、平成5年3月に発足し、31年目を迎えます。

グループ発足のきっかけとなったのは、平成3年9月に九州北部を襲った台風17・19号による甚大な森林被害です。私たちの住む武内町の森林も壊滅的な被害を受け、「このままでは地域の山がダメになってしまう。どげんかせんといかん」という思いから、森林被害の復旧に向けて行動を起こそうと、山を愛するメン



山を愛するメンバー「武内町親林会」

バーが結集し発足しました。

現在、会員数は14名で、地域の森林環境の保全と良質な木材の生産のために、意欲的に活動してい

ます。

子どもたちに森林への関心を深めてもらう

最近、私たちが特に力を入れて取り組んでいる活動を紹介します。全国的な問題でもあると思いますが、森林への関心の薄れや後継者不足などから、武内町でも手入れ不足の森林が増加しています。この課題の解決に向けて、次代を担う子どもたちに、身近にある森林の現状を知ってもらうとともに、

森林の役割や大切さを伝えていきます。そしてなによりも自分たちのお父さん、おじいさんたちが一生懸命に森林を育ててきたことを知り、少しでも森林に目を向けてもらいたいという思いで、地域の小学生を対象とした森林学習会に取り組んでいます。

学習会では、会員が所有する間伐モデル林に行き、実際に森林を見ながら山の手入れの必要性などについて説明しています。また、林業普及指導員にも協力してもら

「楽しかった」「とてもよい体験になった」「実際に木の手入れをしてみたい」などの声も聞かれ、私たち林研メンバーも大変うれしく感じています。

所有者の森林への関心呼び戻す

地域の森林所有者のみなさんにも、もっと森林に関心を持ってもらうとともに、山からの恵みについて再認識してもらいたいという思いのもと、林業普及指導員の協力も得ながら「チェーンソー目立て講習会」や「しいたけ駒打ち体験会」を開催しています。

参加者からは、「久々に自分の山に行ってみるか！」「いったうれしい声もあがりました。こうした講習会をきっかけに、薄れかけていた山への関心を取り戻していただく方が、少しずつでも増えていくことを期待しています。」

武内町親林会では、今後ともこ



「チェーンソー目立て講習会」

うした取り組みを継続、発展させ、手入れ不足の森林を減らして豊かな森林をつくり、次代を担う子どもたちに引き継いでいきたいと考えています。

私たちが地域の森林づくりの先頭に立って、林業の振興や地域の活性化に貢献していきたいと思

＊まとめ

会長 古賀徹之



「しいたけ駒打ち体験会」

います。木の伐り方などについて学ぶとともに、チェーンソーの音や木が倒れる音、衝撃などを通じて、山の手入れの雰囲気を感じてもらいます。さらに、実際にノコギリを使った丸太切り体験も行い、木の香りも感じてもらっています。

学習会に参加した子どもたちからは、

事

私たちのチャレンジ！

例



インターンシップで製材所を見学。いつか地元スギ材の建築物を建ててほしい

建築学科の高校生に インターンシップ提供 津山町林業研究会「宮城県」

「津山スギ」の
一大産地で活動

宮城県の北東部にある登米市津山町は、森林面積が総面積の8割を占め（5600ha）、人工林率は75%に達します。その9割がスギで、ブランド「津山スギ」の一

大産地を形成しています。

津山町林業研

究会は、昭和57年に森林所有者を中心に結成されました。その後、伐採搬出業

者・森林組合職員などの素材生産

者や木炭生産者・木工職人・農協

職員等の流通加工関係の新会員7

名が加入すると、木に携わる人た

ちの情報交換が活発化し、会員相

互の親睦が進みました。現在は14

名で活動を行っています。

当林研では、これまでに産業体

験・食育・自然体験・環境学習等

を通じて森林文化を伝えることで、

森林・林業後継者の育成に積極的

に取り組んできました。最近では、



ハーベスタによる伐倒・玉切りの見学。普段使用する工業設備にはない感触を体験

地元小学校の「みどりの少年団」

に対し、林間を利用したワサビ栽

培の現地見学・食育を実施してい

ます。また「市民参加の新たな森

林づくり」と題し、登米市が開催

している植樹祭には、長年関わっ

ています。

地元スギ材で建築物を
建ててほしい

林研活動のさらなる飛躍のため
に、木材需要や価格の低迷等の課



市有地の原野を森林に戻すための「市民参加の新たな森林づくり」（植樹祭）。

林研が植栽方法などを指導する

題解決にも取り組んでいます。「津

山のスギ」の「よき需用者（消費

者）」を増やしていくにはどうす

ればよいのか会員で考えた結果、

平成20年から、あえて農業高校で

はなく、建築を学ぶ工業高校生を



下刈り鎌を使って作業



小学生の林業学習で木炭生産者の話を聞く。この木炭は牛タン屋に提供されている



小学生のワサビ栽培の現地見学・食育。ワサビだけの手巻き寿司をおかわりしながら、笑顔で食べていた

＊まとめ
事務局 佐々木寿光

うに思われます。
今後は、いただいた提案も組み入れながら、さらなる活動の拡大・充実に努め、農業・水産業等との連携も視野に、地域のリーダーとなる後継者育成の道を模索してみたいと思います。

ターゲットにした「インターンシップ」を始めました。
林業体験の実績があった、宮城県古川工業高校に好意的に受けてもらい、登米市担当者および県の地域事務所の支援のもと、活動を行っています。
令和4年度はスギコンテナ苗を植栽し、ニホンジカの食害に対する単木防除等を行いました。生分解性樹脂の筒を植栽されたスギに被せ、人工いぼ竹の支柱で保持するという簡単な方法で設置できるので、高校生インターンシップ活動に最適と判断しました。植栽地は幹線道路に沿った市有林なので、

市において施工コストを環境サービスが吸収できると判断されたところです。そこに、現代病のスギ花粉症対策のため少花粉スギコンテナ苗を植えることとしました。
令和5年7月20日には2年生40名を対象としたインターンシップを行いました。まず前年に先輩方が植栽した少花粉スギについて、県の地域事務所から品種などの特性の説明がありました。次に、下刈り作業の注意点を林研メンバーが説明し、実際に下刈り鎌での作業をしました。高校生からは「植林により環境改善がされることは、意義のあることだ」といった感想

を聞くことができました。スギは樹形の偏奇もなく、すくすくと育っています。ケガもなく、適切に下刈り作業を終えることができました。
これまでに、建築学科1年生を対象とした下刈りやノコギリによる間伐体験、チェーンソーによる丸太切り、ハーベスタによる伐倒・玉切りの見学を行い、普段使用する工業設備にはない感触を体験してもらったりもしました。建築学科であっても木材として成長するまでの過程を学ぶ機会が現状ではほとんどないので、今回のような体験は非常に意義があるとい

後継者育成の手応えをつかむ

う声を先生方からいただきました。将来、生徒たちがこの体験を思い出し、地元スギ材を活用する建築物を建てる人材に育ってほしいと願っています。

今回のインターンシップでは、社会人に近い世代の育成に取り組む、より具体的に後継者育成の手応えをつかむことができました。これまで教える側からの視点で行っていましたが、回を重ねるうちに学校側からも研修内容を提案されるようになり、学校との結びつきが深くなってきたように思われます。

事

私たちのチャレンジ！

例

竹の活用技術を地域住民に伝授

みよし 三次市森林・林業研究会「広島県」

復活！ 「山仕事講座」

三次市森林・林業研究会は広島県北部の三次市で活動する林研グループです。会員は17名で、平成17年より市民を対象として始めた「山仕事講座」を活動の中心としています。これまで初心者を対象とした「山仕事のいろは」から「天然キノコの採種会」や「災害用ロケットストーブの普及講習会」、「簡易搬出技術の習得会」など毎年テーマを決めて実施してきましたが、コロナ禍では開催を見合わせていました。

昨年12月に「山仕事講座」を復活させることとなり「無煙炭化器及びウッドチップパー活用講習会」を開催しました。今回はこの講習会についてご紹介したいと思います。

竹林繁茂対策と 地域資源の活用を目指して

竹林の繁茂・荒廃は、全国的な課題になっています。われわれの地域でも活用されなくなった竹林による景観悪化はもちろん、道路通行の妨げ等の問題があります。

三次市では「ひろしまの森づくり県民税」を財源に竹林の繁茂防止を目的とした里山林整備を行っていました。除草剤による環境負荷への懸念がありました。また地域資源の有効活用の面から「無煙炭化器を活用した竹林の繁茂対策」を市に紹介し、市民への無償貸与が可能な無煙炭化器を購入していただきました。

講習会の対象者は 住民自治組織

講習会は、無煙炭化器（※1）

とすでに導入済みであつたウッドチップパー

（※2）の活用をテーマとしました。開催の

案内は、市内にある18の住民自治組織と地域コミュニティセンター、無煙炭化器／ウッドチップパーの貸し出し窓口である地元森林組合に行い、15名の参加がありました。

当日は、まず座学で林研グループによる無煙炭化器の使用法を紹介しました。そのあとウッドチップパーについて

地元林業機械販売会社から安全な使用方法の説明を受け、竹林整備地でチップパーの始業点検方法、構造確認、始動から緊急停止、粉砕作業までを参加者全員で実際に



無煙炭化器の説明

行いました。

チップパー機は大きすぎないサイズであるにもかかわらず、竹はもちろん直径15cm程度の雑木でも軽々と粉砕し、チップにしてい



できあがった竹炭



無煙炭化器の燃焼の様子



ウッドチップパーの説明と実際の操作体験

ます。思ったより細かく粉碎され、伐採後に集積してあつた竹が減容されました。

無煙炭化器については、講習当日が暖冬で積雪もなく強風下という状況であつたため作業を断念し、代わりにグループで試作した竹炭の確認をしてもらいました。炭焼き器としてだけでなく、たき火器としても、着火が簡

易でよく燃える優秀さについて報告させていただきました。



炭焼きのほか、たき火も楽しめる無煙炭化器

林研グループでは、これまでに300 kg以上の木炭生産ができる大型窯での炭焼きやドラム缶炭窯の作成をしました。今回の無煙炭化器での講習は、林研として活動のスケールダウンは否めませんが、この炭化器は軽量でどこにでも運びやすい上に、着火から炭化、消火に至るまでに時間がかからず簡単です。市内の多くの自治組織等に活用いただき、竹林の繁茂対策にとどまらず、楽しいたき火の機会提供や地域資源としての竹林活用につながるきっかけとなれば幸いです。

*まとめ

会長
新見文章

事

私たちのチャレンジ！

例

継続15年 高校生への間伐指導

千葉県林業研究グループ連絡協議会「千葉県」

自分たちにできること、
やるべきこと

千葉県林業研究グループ連絡協議会（以下、当会）は、会員の所有林における森林の手入れや、地域の森林所有者からの森林整備の請負などの活動を行っています。

日々、自分たちにできることは何かを考えながら、活動に取り組んでいるのですが、森林を整備して所有し続けることで、森林の多面的機能を保ち続けること以外にも、何かできることはないか、ということが大きな課題となっていました。そのような中、自分たちの技能を生かした取り組みとして、技術を継承して後継者を育成しよう、県内で唯一森林・林業関係の学科がある県立君津青葉高等学校

校の高校生への技術指導を15年前から継続しています。

指導における工夫

間伐体験に参加する生徒には、会員から森林の仕事に関する話をします。近年では高校を卒業し、地元の森林組合等に就職した先輩にも声をかけ、生徒の前で仕事についての話をしてもらっています。

体験は複数班に分かれて実施します。「伐倒・玉切り・枝打ちの班」は、周囲の班から大きく距離をとり、安全を確保した上で作業に取り掛かります。なるべく伐倒の難易度の低い木を選定するのですが、それでも難易度が高そうな場合は、会員が牽引具を伐倒木に設置してから、作業を行います。

一方「はい積み」の班は、重機



木の重心についての指導



伐採時の姿勢についても確認



伐採後に受け口と追い口とツルの確認



玉切りの指導

＊まとめ
会長 岩井 誠

林組合等に就職する生徒もいます。また高校生たちの「大変だけど、面白さがわかった」「どんな仕事か知ることができた」という声がとても励みになるため、今後もこの取り組みを継続していきたいと思っています。

高校卒業後に県内の森

導に生かすことを大切にしています。木が一本一本異なるように、生徒も一人一人が異なるため、指導方法についての学びも終わりはなく、ということを感じています。



刃先が下がらないよう指導

を用いた丸太の移動やはい積み、林内作業車を用いた集材作業を体験します。午

必要です。初心者の生徒にチェーンソーを持たせるため、安全を考慮し、生徒一人に対して、指導者が一人以上張り付きます。また周囲の状況の確認や安全を確保するために、指導の補助者も設置しています。安全な間伐指導のためには、かなりの人数を要するため、当会の会員に呼び掛け、県内各地の会員が集まり、間伐指導に当たっています。

教える側にも 学びの終わりはない

間伐体験後には、会員相互で振り返りを行い、その内容を次の指



反省会での活発な意見は次に生かします

事

私たちのチャレンジ！

例

継続20年以上 小学校での体験教室

佐伯市林業研究グループあさぎりの会「大分県」

若手が多く職業さまざま

佐伯市は大分県の南部にあり、古くから林業が盛んな地域です。

「佐伯の殿様浦でもつ、浦の恵みは山でもつ」と言われ、佐伯藩は日本で初めて魚つき林保護の御触書を出したと言われています。

佐伯市には5つ

の林研グループがあり、70名以上の会員がいます。近年は素材生産で勢いのある林業事業体の若手も加入し、50代以下が1/3を占めます。そのうちのひとつ、あさぎりの会の会員は13名で、職業は農林家、大工、公務員とさまざまです。

木工やシイタケの駒打ち
小学校での体験教室

会の活動として、20年以上前から地元小学校で木工教室を行っています。小学校はスギ山に囲まれた場所に立っており、窓から見えるスギがどのように活用されているか知ってもらいたいという思いで続けてきました。会長の甲斐源市さんは大工で、通称「大工の源さん」と呼ばれています。毎回、大工の腕を生かした熱烈指導で完成度の高い本棚や体育館用具



シイタケの駒打ち体験教室



昨年の林研グループ九州地区交換研修大会では、みごと準優勝を獲得



地元小学校での木工教室

**さらなる
技術向上を**

会員の技術向上のための活動として先進地研修等も行っています。令和4年度は山口県農林技術センターを訪ね、センダヤンやコウヨウザン等の早生樹を活用した再造林について早生樹の可能性などの意見交換をしました。

また、会員が県林研に働きかけ、「森フェス」という森林・林業教育の体験イベントと共催し、伐木大会を開催しました。あさぎりの会からも2名が参加しました。みどりの少年団が見学

◆

佐伯市でも年間300ha以上の再造林が行われており、地元の農林家が協議会を作り、佐伯広域森林組合と連携してスギコンテナ苗生産に取り組んでいるところです。あさぎりの会の会員4名もこれに加わり、技術向上と増産に取り組んでいます。

に訪れ、チェーンソーで手際良く伐木する山師の姿に「すげー！がんばって！」との声があがりました。高い技術には基本的な安全対策が必須であることを、改めて確認する良い機会となりました。林業が再び循環を始めた佐伯で、林研グループは林業の担い手として重要な存在です。今後も活動を応援したいと思います。

＊まとめ

南部振興局

林業普及指導員 松原恵子

(所属は執筆時)

を作成し、子どもたちや先生からは「初めての体験だったけど、うまくできてとても楽しかった」と喜びの声が挙がります。

また大分県特産のシイタケ栽培に興味を持ってもらうため、駒打ち体験教室も開催しています。会員がシイタケ栽培について語り、駒打ちの手ほどきをするこの活動も20年以上継続してきました。ほだ木は校庭に伏せ込み、児童は収穫を楽しみにしています。このような交流を通して林業に親しみをもち、将来は後継者になってほしい

いという願いを込めて活動をしています。

最近子どもたちはSDGsについて学習しています。会としてこれまで無意識にやってきた活動は、実はSDGsの目標とつながっており、「林業は活動そのものがSDG



会員による間伐研修



森林組合と連携したスギコンテナ苗生産に参加

事

私たちのニューフェイス

例



Uターンで林業に就き、起業。 木炭の地産地消をきっかけに加入

三隅林業研究グループ「山口県」／福永篤史さん

演劇の世界から林業界へ

福永篤史さんは、約2年前、35歳の時に三隅林業研究グループ（以下、三隅林研）に入会しました。まだニューフェイスではあるものの、会の主力メンバーの一人として活躍しています。

昭和61年、山口県長門市で生



学生時代の福永さん

まれた福永さんは、高校時代にファッションや映画に興味を持ち、東京の専門学校へ進学します。カメラや服作り、ファッションショーの企画など、林業とは全く縁のない学生生活を送りました。卒業後は演劇の世界へ進み、歌舞伎の衣装制作などに約10年間携わりました。公演のたびに全国を飛び回っていたそうです。

充実した日々を過ごす福永さんに転機が訪れたのは、子どもが生まれた平成29年のことでした。当時の職場は拘束時間が長く、不規則な勤務体系だったので、家族との時間が持てないことに違和感を覚えるようになりました。将来を見据えて転職・移住を決意します。転職を考える日々の中、たまたま目に留まった雄大な巨木に魅了

され、木に関わ

る仕事があった

と「森林の仕事

ガイダンス」に

参加しました。

そこで見つけた

県内の製材・木

材加工などをメ

インに営む事業

体に、自らアップ

ローチして林業

界での第一歩を

踏み出します。

その後、林業

を基礎から学ぶため森林組合に勤務し、さまざまな実務経験を積み

ました。そして令和3年10月に林

業事業体を設立し、現在は素材生

産、支障木伐採、森林環境教育の

3本柱で事業を行っています。



令和3年に林業事業体を設立。最近導入した機械と福永さん

焼き鳥と炭焼きで 地産・地消の活動

林業を一生の仕事と決めた福永さんは、いずれは森林を所有したいという希望を持っていました。



「令和5年度全国林業グループコンクール」で林野庁長官賞を受賞。発表をした福永さん（右）と山本会長

とはいえ、まだ「林家」ではない福永さんには、地域の林家の方々ととの接点がありませんでした。そんなある日、山口県下関農林事務所を訪れたときに、地区林研事務局との雑談の中で「長門の焼き鳥と炭焼きで地産・地消の活動が始まる」と耳にします。もともと広葉樹の活用に強い関心を持っていた福永さんは「面白そう！ 参加したい！」とその場で参加の意思を表明しました。

「林業を生業にしている若い人が活動に参加したいと言っている」と耳にした三隅林研の山本英雄会長は福永さんを大いに歓迎し、福永さんの入会が決まりました。

た。「木や山のことをわかっていて、山仕事もできる。グループの将来に必要な人材が現れた」と山本会長は心強く感じたそうです。

新たな視点で林業に関わる人を増やしたい

現在、三隅林研では「みすみ炭」という木炭を生産しています。市内の焼き鳥店などで組織する「長門やきとり横丁連絡協議会」が地元産の炭を求めたことがきっかけで誕生しました。里山整備で伐採した雑木を炭にして、焼き鳥店へ出荷しています。



植樹体験イベント

他にも三隅林研は、以前から地元小学校での森林体験学習活動を継続しています。「みすみ千年の森」に続く林道での草刈り作業等、地域に根差した活動です。福永さんは活動に参加する中で「先輩方の息遣い、昔ながらの知恵や経験を学んでいる」と感じるそうです。

「楽しみながら、地域に根づいた『人間味のある』林業に参加していきたい」という希望を持って

今後の展望について「炭焼きや里山整備体験などを通じて森林と関わる人の視点からは、林業関係者とは全く違う一面を感じる。それがこれからの林業には求められると思う。木炭の生産量を少しずつ増やし、一般的な林業とは違った視点で林業に関わる人を増やしていきたい」と熱く語る福永さん。県林研事務局として、福永さんのご健勝とますますの活躍を期待しています。

＊まとめ

山口県林業研究グループ
連絡協議会

事務局 木村衣里菜



ツリークライミング体験会にて娘さんと

事

私たちのチャレンジ！

例

森林と人が共に育つ 森林環境「共育」

館岩グリーンフォレスト―「福島県」

森林環境教育への 取組

館岩グリーンフォレストは、福島県南会津町館岩地区（以下、「館岩地区」という。）で活動する

林業研究グループです。メンバーは30～40代の森林組合職員や農協職員、役場職員の男女11名で構成されております。主な活動は「森林環境教育」や「人と野生動物の緩衝帯づくり」です。今回は「森林環境教育」の取り組み

についてご紹介させていただきます。

われわれが活動する館岩地区の特徴は、福島県南西部に位置し、近隣には尾瀬国立公園や只見ユネスコエコパークなど、自然豊かで昔ながらの農村風景に囲まれていることです。

この豊かな自然環境の中で子どもたちが森林に慣れ親しみ、少しでも林

業について知り、興味を持つてもらうため、森林環境教育に取り組んでおります。

森林環境教育は幼少期からの教育が重要といわれており、その経験や体験が貴重な糧となり、将来にわた

り森林・林業への意識醸成に役立つものと考えております。また、地元の森林・林業の担い手を育成するためには郷土愛を育む必要もあり、地元に着した活動が将来の森林・林業の地域の担い手づくりとして期待されることから、地元の幼稚園児や小学生との交流事業を展開しています。

地域外の学校も受け入れ、 森林環境「共育」

館岩地区を含む福島県南会津町では恵まれた自然を生かし、アグリツーリズムやグリーンツーリズムなど農山村での自然体験を南会津町や南会津農村生活体験推進協

担い手育成のため郷土愛を育む



地元小学生による間伐体験





幼少期からの森林環境教育を重要視



幼稚園児のきのこ植菌体験

議会など行政が主導して関東方面などへ粘り強く広域的にPRしてきました。その結果、館岩地区への宿泊体験を希望する学校が増加

林業体験では、よりよい森林づくりのために間伐が必要であること、間伐で出た材は木質バイオマス等に利用され

す。
また、館岩地区では人口減少、少子高齢化により一段と過疎化が進んでおり、森林の手入れがされないことによる荒廃が懸念されております。このため、われわれは森林を守り育て、雄大な自然環境と共存するとともに、町民・地域間交流によって環境の改善を図るため、森林と人が「共に育つ」という意味を込めて森林環境「共育」をコンセプトとして、全国林業研究グループ連絡協議会の支援をいただきながら森林・林業体験を実施しています。

また、館岩地区では人口減少、少子高齢化により一段と過疎化が進んでおり、森林の手入れがされないことによる荒廃が懸念されております。このため、われわれは森林を守り育て、雄大な自然環境と共存するとともに、町民・地域間交流によって環境の改善を図るため、森林と人が「共に育つ」という意味を込めて森林環境「共育」をコンセプトとして、全国林業研究グループ連絡協議会の支援をいただきながら森林・林業体験を実施しています。

してきており、われわれはその受け入れ先として森林・林業体験を実施してきました。



地域間交流による林業体験1（間伐・枝打ち）

林業体験で実施したきのこ植菌や間伐体験の取り組み成果としては、地元の幼稚園児や小学生との交流により、保護者をはじめ地域住民のみなさんにわれわれの活動

県外からの体験希望は毎年10校以上

林業体験に参加して森林や林業のことを知ることができてよかった」などの感想をいただきました。

ていることなどの理解を促すため、実際に間伐を体験してもらいました。伐倒後は、輪切りのコースターなどを作成し、記念にお土産として持って帰っていただきました。「林業体験に参加して森林や林業のことを知ることができてよかった」などの感想をいただきました。



地域間交流による林業体験2（間伐・枝打ち）

代表 星 祐治

今後も地元の幼稚園児、小学生と交流を図りながら、県外の学校とも地域間交流を深めていける活動を継続していきたいと思っています。

への賛同が広がっています。当地域での林業体験を希望する県外の学校も毎年10校を超えており、われわれの取り組みが徐々に地域間交流に寄与する形となつて現れつつあります。

事

私たちのチャレンジ！

例

山の恵み「薬草」で暮らしを豊かに

真庭森林・林業研究会「岡山県」

「美作材」の流通拠点

真庭森林・林業研究会は、岡山県北部の真庭地域（真庭市と新庄村）で活動しています。真庭地域には原木市場3カ所、製品市場1カ所、製材事業者32社が立地し、木材生産から製材加工、流通にいたる「美作材」の流通拠点となる

ています。研究会の現在の会員数は20名で、林家、素材生産業者、苗木生産者、家具職人など多彩な人材で構成されています。

研究会では長年、「真庭産優良材品評会」を開催し、目揃いや枝打ち・間伐の実施状況を審査し、優れた保育技術を顕彰することで、

優良材の産地形成を図ってきました。また平成16年に台風

第23号の襲来で甚大な風倒木被害が発生した時には、被害実態の調査、森林所有者の意向調査を行い、災害に強い森づくりの指針を報告書「未来に引き継ぐ真庭の森づくり」にまとめました。



品評会で優良材の産地形成（平成27年まで実施）



林業の盛んな富原地区の小学校での林業教室

近年では、素材生産業を営む会員による「富原の林業に親しもう」と題した小学校での林業教室や、家具職人である会長の「家具づくり塾」や親子木工教室など、木に触れる機会を提供しています。



フィールドワークで
ジャムに加工するスイバを採取

薬草を活用した ワークシヨップ

さまざまな活動のなかでも、今回は、薬草活用の取り組みについてご紹介します。

「日々の暮らしに薬草を」をテーマに、日常生活に薬草を取り入れていくことで楽しく健康に日々を過ごすことを提案しています。タンポポ、オオバコなど、身の回りに自生している草には、薬効があるものもあります。薬草を身近に感じてもらうために、薬草ジャム作りなどのワークシヨップをこれまでに30回程度開催してきました。

ワークシヨップでは薬草をその場で採って、調理して試食したり、加工体験して持ち帰ったりしています。参加者は、子育て世代や、健康に気をつかう世代など食に関心のある方々が多く、身近にある植物がおいしく食べられることに感心する姿が見られます。また「防災食としての薬草活用ワークシヨップ」として、フィールドワークで身近な薬草を

知り、それらを活用した防災食をみんなで試食し、災害時に備えようというワークシヨップも開催しています。

山野草11種類の 「里山キッチンカレー」

もともと薬草の活動は「富原婦人林業研究クラブ」という女性林研（真庭森林・林業研究会に加盟、現在は解散）が、野草の薬用効果や料理方法を学び商品開発を行っていました。その取り組みが話題となり、平成29年には真庭市で「全国薬草シンポジウム」が開催され、平成30年に「真庭・食べる薬草振興協議会」が設立されました。



「里山キッチンカレー」のレトルト（右下）チラシ、薬草料理冊子

協議会では、地域の山野草11種類を採取して「里山キッチンカレー」を生産しています。材料はベニバナボロギク、イノコズチ、ヤブカンゾウ、アザミ、タンポポ、オオバコ、ハコベ、ヨモギ、ノビル、セリ、ユキノシタです。それぞれ旬の時に採取し、ソテーして冷凍保存しておき、年に1度まとめて加工しています。令和6年5月に岡山県で開催された「第52回全国林業後継者大会おやかま2024」にも出展しました。



ジャムづくりワークショップでの調理の様子



後継者大会に出展

薬草を山の恵みと捉えることで、森林・林業の可能性が広がります。林業に携わる人だけでなく、地域内外の様々な人に広く山に関心を持つてもらうことは、真庭の林業の将来にとって大切なことです。真庭地域には、地域一体となつて物事を考える風土があり、これから関係団体と連携して、地域を盛り上げる活動が続けていきたいと考えています。

＊まとめ

美作県民局 真庭地域森林課
林業普及指導員 小川章子

事

私たちのチャレンジ！

例



「お山を学ぶ」。生き物観察や森林のしくみを学ぶ

地域の「こども食堂」と 協働

岩手県森林組合青年部連絡協議会（会長・澤 幹信）は、県内の森林組合青年部を構成員とする協議会組織として昭和53年に創設されました。現在は8青年部会を3

岩手県森林組合青年部連絡協議会「岩手県」

ブロックに分け、運営しています。今回は、協議会が青年部の活力となることを目的に実施している「お山食堂」を紹介します。

「お山食堂」は、一般市民を対象とした森林に親しむ機会として企画したものです。森林・林業活動におけるSDGsに対応した内容となっており、祝日「山の日」の一環事業として実施しています。

当地域には「こども食堂」の活動があり、「こどもを孤立させない地域づくりの創出」という主旨で活動をしています。その「こども食堂」が、活動場所を求めていることを知り、われわれがフィールドを提供することで、林業の認知度を高め、担い手の不足に



「お山で食べる」。昼食と一緒に食べて「ごちそうさま」までが活動

も一役を買うのではないかと考えました。そこで、山側の森林組合青年部と地域側の「こども食堂」運営者が協働企画を実現することになりました。双方のできることを生かし、不足を補うという形ができていることが特徴的です。

普段できないことを提供

「お山食堂」という名称は、「こ



「お山をみんなで楽しむ」

ども食堂」を運営する「認定NPO法人インクルいわて」が実施する職業体験活動「インクルしゃいん食堂」を参考にして、林業体験版として命名しました。2019

「お山食堂」から始まる林業の未来



「お山で働く」。森林や林業の作業を体験



「お山で遊ぶ」。山にあるものを活用してブランコを作成

年から年に1、2回開催しており、毎回親子15〜32名の参加があります。

スタッフは当協議会のメンバーのほか青年部に声を掛け、毎回10名前後の体制で実施しています。

内容としては、毎回テーマを設定し、薪割り体験、木工・クラフト体験、落ち葉かきの森林整備、植栽を通した森林づくり、生き物観

察や森林のしくみを学ぶ学習、伐倒・造材のデモンストレーションを見学するなど森林や林業の作業を体験する活動を午前中に行います。

「こども食堂」との連携でもあるので、昼食と一緒に食べて「ごちそうさま」までの活動を行います。食材については「こども食堂」へ寄付された食材等を活用し

ながら、会場の雨天時も利用できる野外炊事場で、バーベキューや窯でのピザ焼き、炭火での川魚の塩焼き、ご飯を薪で炊く、きのこ山菜の汁物を作るなど、食においても

普段の「こども食堂」ではできないことを提供できていると感じます。もちろんテーマに合わせた活動にとられず、その場にあるものを活用して、ブランコの作成や、丸太の輪切りを活用したボーリングなど、遊びのネタは尽きることがなく、時間を忘れて一緒に楽しんでいる姿が印象的です。

参加者からの声は次の通りです。

・お腹いっぱい自然の中、みんなで食べておいしかったです。

・まき割り体験やアスレチックなど、とても楽しく過ごすことができました。いろいろな人とお話しできてよかったです。

・涼しい環境の中で子どもたちが元気いっぱい走り回って遊んで、こちらもうれしくなりました。

「場」の共有から得られる物事

子どもたちと一緒に作業をして、一緒にご飯を食べるという「場の共有から得られる物事は大変多いと感じています。活動に「SDGs」という言葉を入れていますが、「お山食堂」ではそれを前面に出すのではなく、活動を通して自然と目標に貢献しているという形にしていきたいと考えています。活動としてはようやく7年が過ぎたところで、現時点としては「できる」ということが周知されてき



「お山を整備する」。落ち葉かき、植栽を通した森林づくり

たところでは、当初の目的としては、メンバーの青年部の活力となることとしているので、今後の展開としては、各青年部が地域の「こども食堂」等と協働し、各地での「お山食堂」が開催されるように支援していきたいと考えています。

参加者の声を得て、森林・林業に対して自信と希望を持ち、地域林業の発展に寄与していくという明るい林業の未来を描ける林業者を育てていきたいです。

＊まとめ

事務局長 木幡英雄

卷末資料



林業で働くために

林業の仕事いろいろ

林業の仕事には大きく分けると、森林を植えて育てたり、木を伐る仕事を担う民間の林業会社、森林所有者を組合員として地域の森林経営を担う森林組合の2つがあり、木材産業では、木材を取り扱う原木市場や木材会社があります。最近では企業団体の先進化・多様化が進み、新しいスタイルを模索する林業の現場も増えてきています。

林業会社

森林所有者から立っている木を買って伐採して市場などに販売する形態が多いです。また、造林を専門に行う会社もあります。最近では、建設業から参入している会社も見られます。

森林組合

森林所有者を組合員とした協同組合です。森林がある全国のほとんどの地域をカバーしており、約600あります。

国や都道府県の森林林業関係の助成制度の受け皿として、地域の森林経営の推進役として様々な業務を担っています。

組合によっては森林作業班を独自に持ち、さらには原木市場や木材加工施設や販売施設を営んでいるところもあり、その形態は様々です。

原木市場

林業会社や森林組合から集荷された木材の市を開催して製材工場などに販売しています。近年は山の現場から直接大型工場へ直送されるケースも増えてきたことから、木材の供給先と需要先を情報で繋ぐ新たな形態が期待されています。

木材会社

従来の丸太から板や柱を挽く製材工場、ラミナと呼ばれる木片から柱などを生産する集成材工場、丸太を剥いて重ねて板を生産する合板工場、柱材を建材に加工するプレカット工場などがあります。近年は大型化が進んでいます。一方、家具や小物をつくる会社も多くあります。

Q&A

Q 体力的な条件などがありますか？

A 林業機械の導入が比較的進み、男女の体力差が問われない作業環境になってきています。また森林施業プランナーなど比較的体力を重視しない職種もあります。

Q 危険な作業が多く、安全面で心配です。

A 安全を重視した林業技術を習得する研修制度があります。また、安全防護装備も近年急速に普及しています。機械の改良も進み安全に対する意識は高まっていますが、常に自分自身が安全への意識を持って仕事に取り組むことが大切です。

Q 女性の場合、トイレや着替えはどうしていますか？

A 移動式トイレを導入する会社もあります。また着替えについては移動中に公衆トイレなどへ立ち寄るなどの配慮をする会社もあるようです。

Q 女性特有の体調不良や産休・育休にも対応してくれますか？

A 会社ごとの判断になりますが、女性を採用する会社の多くはそうした配慮ができているところが多い傾向があります。会社を選ぶ際によく確認してみましょう。

林業で働くための方法

就職を希望しているなら…

■ 森林の仕事ガイダンス

森林の仕事ガイダンスは、新たな林業の担い手の確保・育成を目的に、森林・林業に関心を持つ方を対象に実施する説明・相談会です。会場には、参加都道府県の林業労働力確保支援センターや森林組合連合会が相談ブースを設け、各地の林業に関する情報、林業作業の内容や就業までの流れについての説明、参加者からの相談に応じます。



森林の仕事ガイダンス風景。写真は森林組合の林業現場で働く女性。このガイダンスで先輩の説明を聞いて東京から就業した女性もいます。

■ インターンシップ

地元の森林組合や林業会社で短期間のインターンシップを体験して、就業を決めるケースもあります。各都道府県の林業労働力確保支援センターにお問い合わせ下さい。

もっと林業を学んでから就職を考えたいなら…

■ 林業大学校等への進学

近年、林業就業者の育成を目的とした林業大学校等（教育・研修機関）の設立が相次いでいます。多くが1年制あるいは2年制で、高校卒業を入学資格としている機関が多いようです。2024年4月時点で、27校となっています。

林業大学校等は都道府県等が設置・運営している学校です。また4年制大学への編入受験資格の取得が可能な学校もあります（専修学校）。

10～20名程度を定員としているところが多く、実習に力を入れており、森林・林業に関する様々な資格取得が可能です。卒業後は林業現場の即戦力として活躍している若者が全国で増えています。

■ 大学への進学

森林・林業に関する学科・科目がある大学は、2024年4月時点で全国に34校あります。森林科学科や生物環境科学科など学科の名称は大学によって様々で、各大学の地域性や伝統など、その大学ならではの強みや個性が見られます。大学で学んだ知見を生かし、卒業して林業の仕事に就く若者も少なくありません。



森林・林業に関する学科・コース設置校一覧表（林業大学校等）

令和 6 年 4 月現在 ※林野庁 HP を参考に編集部で作成

都道府県	学 校 名	郵便番号	所 在 地	電話番号	修学・ 研修期間	該当学科等
北海道	北海道立北の森づくり専門学院	078-8381	旭川市西神楽 1 線 10 号	0166-75-6161	2 年制	林業・ 木材産業学科
青森	青い森林業アカデミー	039-3321	東津軽郡平内町大字小湊字新道 46-56 (青森県産業技術センター林業研究所研修棟)	017-763-4022	1 年制	
岩手	いわて林業アカデミー	028-3623	紫波郡矢巾町大字煙山第 3 地割 560-11	019-697-1536	1 年制	
秋田	秋田県林業研究研修センター (愛称:秋田林業大学校)	019-2611	秋田市河辺戸島字井戸尻台 47-2	018-882-4512	2 年制	秋田県林業 トップランナー 養成研修
山形	東北農林専門職大学附属 農林大学校	996-0052	新庄市大字角沢 1366	0233-22-1527	2 年制	林業経営学科
福島	林業アカデミーふくしま	963-0112	郡山市安積町成田字西島坂 1 (福島県林業研究センター)	024-945-5974	1 年制	就業前長期研修 短期研修
栃木	栃木県林業大学校	321-2105	宇都宮市下小池町 280	028-612-6069	1 年制	
群馬	群馬県立農林大学校	370-3105	高崎市箕郷町西明屋 1005	027-371-3244	2 年制	農林業 ビジネス学科 (森林コース)
福井	ふくい林業カレッジ	918-8567	福井市江端町 20-1	0776-38-0345	1 年制 3 ヶ月	長期コース 短期コース
山梨	専門学校山梨県立農林大学校	400-0502	南巨摩郡富士川町最勝寺 2290-1	0556-42-7080	2 年制	養成科森林学科
長野	長野県林業大学校	397-0002	木曽郡木曽町新開 4385-1	0264-23-2321	2 年制	林学科
岐阜	岐阜県立森林文化アカデミー	501-3714	美濃市曾代 88	0575-35-2525	2 年制	森と木の クリエイター科 森と木の エンジニア科
静岡	静岡県立農林環境専門職大学・ 短期大学部	438-8577	磐田市富丘 678-1	0538-31-7901	2 年制	生産科学科 林業コース
京都	京都府立林業大学校	629-1121	船井郡京丹波町本庄土屋 1 番地	0771-84-2401	2 年制	森林林業科
兵庫	兵庫県立森林大学校	671-4142	宍粟市一宮町能倉 772-1	0790-72-2700	2 年制	専攻科
奈良	奈良県フォレスターアカデミー	639-3113	吉野郡吉野町飯貝 680	0746-42-8100	2 年制 1 年制	フォレスター学科 森林作業員学科
和歌山	和歌山県農林大学校	649-2103	西牟婁郡上富田町生馬 1504-1	0739-47-4141	1 年制	林業研修部 (林業経営 コース)
鳥取	日南町立にちなん中国山地 林業アカデミー	689-5224	日野郡日南町多里 782-2	0859-84-0070	1 年制	林業専修科
島根	島根県立農林大学校	690-3405	飯石郡飯南町上来島 1207 島根県中山間地域研究センター内	0854-76-2100	2 年制	林業科
徳島	とくしま林業アカデミー	770-0045	徳島市南庄町 5 丁目 1-9	088-635-7812	1 年制	
	三好林業アカデミー	778-0002	徳島県三好市池田町マチ 2551 番地 1 農村婦人の家 2F			
香川	香川県立農業大学校	766-0004	仲多度郡琴平町榎井 34-3	0877-75-1141	2 年制	林業・造園緑化 コース
愛媛	南予森林アカデミー	798-1351	北宇和郡鬼北町大字奈良 4073-7 一般社団法人南予森林管理推進センター	0895-49-5083	1 年制	
高知	高知県立林業大学校	782-0078	香美市土佐山田町大平 80	0887-52-0784	1 年制	基礎課程 専攻課程
熊本	くまもと林業大学校	862-8570	熊本市中央区水前寺 6 丁目 18-1 熊本県林業振興課	096-333-2444	1 年制	長期課程
大分	おおいた林業アカデミー	879-5114	由布市湯布院町大字川北 899-91 大分県林業研修所	0977-85-7715	1 年制	
宮崎	みやざき林業大学校	883-1101	東臼杵郡美郷町西郷田代 1561-1 宮崎県林業技術センター	0982-66-2888	1 年制	

注：地方公共団体の研修機関又は学校教育法に基づく専門職短期大学、専修学校若しくは各種学校のうち地方公共団体が設置しているもので、修学・研修期間がおおむね 1 年かつおおむね 1,200 時間以上であり、期間を通して林業への就業に必要な技術や知識を習得させる学校等を掲載。

令和6年度 未来の林業を支える林業後継者養成事業 実施グループ一覧

都道府県	林研名	活動内容	林業就業体験等実施校
北海道	北海道林業グループ協議会	高校生等の林業就業体験等	岩見沢農業高校・旭川農業高校・帯広農業高校・札幌工科専門学校
宮城県	仙南フォレストクラブ	高校生等の林業就業体験等	大河原産業高校、白石高校七ヶ宿校
	津山町林業研究会	高校生等の林業就業体験等	古川工業高校
秋田県	北秋田森林・林業振興会	高校生等の林業就業体験等	秋田北鷹高校
福島県	福島県林研グループ連絡協議会	林業グループの林業振興活動	
	舘岩グリーンフォレスター	林業グループの林業振興活動	
茨城県	茨城県林業研究グループ連絡協議会 ★8頁	高校生等の林業就業体験等	大子清流高校
栃木県	栃木県林業振興協会 ★12頁	高校生等の林業就業体験等	鹿沼南高校、宇都宮白楊高校、開智高校、矢板高校、宇都宮大学、ICSカレッジオブアーツ
群馬県	飯と猫と林業女子会 ★16頁	高校生等の林業就業体験等	林業に関心のある女子高校生等
群馬県	NPO法人ロゴーズ	林業グループの林業振興活動	
埼玉県	埼玉県森林協会 林業研究グループ部会	高校生等の林業就業体験等	秩父農工科学高校
東京都	特定非営利法人青梅林業研究グループ	高校生等の林業就業体験等	多摩工業高校
富山県	魚津地区林業研究グループ協議会 ★20頁	高校生等の林業就業体験等	桜井高校
長野県	長野県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	長野県下の高校
	南信州林業研究会	高校生等の林業就業体験等	下伊那農業高校
	木曽林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	木曽青峰高校、県林業大学校
	北信州の森林と家をつなぐ会 ★36頁	高校生等の林業就業体験等	下高井農林高校
	四賀林研グループ	林業グループの林業振興活動	
岐阜県	加子母優良材生産クラブ	高校生等の林業就業体験等	加子母木匠塾に参加する大学生
	高根林業改良クラブ	高校生等の林業就業体験等	飛騨高山高校
	付知町優良材生産研究会	林業グループの林業振興活動	
愛知県	愛知県指導林家連絡協議会 ★24頁	高校生等の林業就業体験等	猿投農林高校、田口高校
	額田林業クラブ	林業グループの林業振興活動	
三重県	熊野林星会	高校生等の林業就業体験等	紀南高校
	松阪林業研究会	林業グループの林業振興活動	
	竹林整備隊	林業グループの林業振興活動	
京都府	京都府林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	北桑田高校
	樹々の会	林業グループの林業振興活動	
和歌山県	和歌山県林業研究グループ連絡協議会 女性林研部会	高校生等の林業就業体験等、林業グループの林業振興活動	りら創造芸術高校、南部高校龍神分校
島根県	島根県林業研究グループ連絡協議会	林業グループの林業振興活動	
岡山県	岡山林業未来会	高校生等の林業就業体験等	真庭高校
広島県	ひろしま森林施業プランナー会	林業グループの林業振興活動	
山口県	山口県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	山口農業高校、萩商工高校、大津緑洋高校
徳島県	かみやま林業振興会 ★28頁	高校生等の林業就業体験等	城西高校神山校
	西井川林業クラブ	高校生等の林業就業体験等	井川中学校、西井川小学校
愛媛県	愛媛県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等、林業グループの林業振興活動	西条農業高校、上浮穴高校・北宇和高校
熊本県	上益城地区林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	矢部高校
	八代地域林業研究・普及連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	八代農業高校泉分校
	芦北地域林業研究グループ	高校生等の林業就業体験等	芦北高校
	球磨地区普及・林研グループ連絡協議会 ★32頁	高校生等の林業就業体験等	南陵高校
	龍門林業研究グループ	林業グループの林業振興活動	
大分県	大分県林研グループ連合会	高校生等の林業就業体験等	日本文理大学
宮崎県	門川町林業研究グループ連絡協議会 ★40頁	高校生等の林業就業体験等	門川高校
鹿児島県	鹿児島県林業研究グループ連絡協議会	高校生等の林業就業体験等	伊佐農林高校
	錫山センリョウグループ	林業グループの林業振興活動	

★は、本事例集第1部で紹介しているグループ。数字は紹介頁をさす。

全国林業研究グループ連絡協議会 事務局一覧

全国林業研究グループ連絡協議会は、46都道府県の実業研究グループ連絡協議会（一部名称が異なる）を会員とし、傘下には森林所有者および林業に従事する者等を構成員として、森林づくり、人づくり、地域づくりを担っている自主的なグループです。

名 称	郵便番号	住 所	電話番号
全国林業研究グループ連絡協議会	100-0014	東京都千代田区永田町 1-11-30 サウスヒル永田町 5F	03-3500-5035
北海道林業グループ協議会	060-0004	札幌市中央区北 4 条西 5 丁目 林業会館内	011-261-9022
青森県林業研究グループ連絡協議会	039-1528	三戸郡五戸町大字浅水字陣場 92-2 三八地方森林組合内	0178-67-2003
岩手県林業研究グループ連絡協議会	028-3623	紫波郡矢巾町大字煙山 3-560-11 県林業技術センター内	019-698-1337
宮城県林業研究会連絡協議会	981-3602	黒川郡大衡村大衡字はぬ木 14-1 県林業技術総合センター内	022-345-2887
(一社) 秋田県森と水の協会 林業後継者部会	010-0941	秋田市川尻町字大川反 170-169 森林環境会館内	018-883-1252
山形県林業グループ連絡協議会	990-2473	山形市松栄 1-5-41 山形県森林協会内	023-666-4331
福島県林研グループ連絡協議会	960-8043	福島市中町 5-18 林業会館内	024-521-3245
茨城県林業研究グループ連絡協議会	311-0122	那珂市戸 4692 県林業技術センター内	029-295-7318
栃木県林業振興協会	320-8501	宇都宮市塙田 1-1-20 県林業木材産業課内	028-623-3273
群馬県林業研究グループ連絡協議会	371-0854	前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル 6F	027-280-6254
埼玉県森林協会林業研究グループ部会	357-0046	飯能市阿須 343-1 西川広域森林組合内	070-2810-1651
千葉県林業研究グループ連絡協議会		(お問い合わせは全国林業研究グループ連絡協議会へ)	03-3500-5035
東京都林業研究グループ連絡協議会	190-0181	西多摩郡日の出町大久野 7852 東京都森林協会内	042-597-2881
神奈川県林業研究グループ連絡協議会	243-0018	厚木市中町 2-13-14 サンシャインビル 604 神奈川県森林協会内	046-240-0500
新潟県林業研究会連絡協議会	950-8570	新潟市中央区新光町 4-1 県林政課経営指導係内	025-280-5326
富山県林業研究グループ協議会	930-0004	富山市桜橋通り 5-13 富山興銀ビル 4 階 県森林政策課内	076-444-3387
石川県林業研究グループ連絡協議会		(お問い合わせは全国林業研究グループ連絡協議会へ)	03-3500-5035
福井県山林協会普及部会林研分科会	910-0003	福井市松本 3 丁目 16-10 福井県職員会館ビル 2F	0776-23-3753
山梨県林業研究グループ連絡協議会	400-8501	甲府市丸の内 1-6-1 県庁林業振興課内	055-223-1652
長野県林業研究グループ連絡協議会	380-0936	長野市岡田町 30-16 林業センタービル内 (一社) 長野県林業普及協会内	026-226-5620
岐阜県林業グループ連絡協議会	501-3714	美濃市曾代 88 県立森林文化アカデミー内	0575-35-2535
静岡県林業研究グループ連絡協議会	420-8601	静岡市葵区追手町 9 番 6 号 県庁西館 9 階 (公社) 静岡県山林協会内	054-255-4488
愛知県森林協会林業研究グループ分科会	460-0001	名古屋市中区丸の内 3-5-16 愛知県林業会館内	052-961-9730
三重県林業研究グループ連絡協議会	514-0003	津市桜橋 1 丁目 104 番地 (林業会館) 林業技術普及協会内	059-228-0924
滋賀県林業研究グループ連絡協議会	520-2144	大津市大萱 4 丁目 17 番 30 号 林業協会内	077-599-4572
京都府林業研究グループ連絡協議会	604-8424	京都市中京区西ノ京樋ノ口町 123 京都府森林組合連合会内	075-841-1030
大阪府		(事務局なし)	
兵庫県林業研究グループ連絡協議会	671-2515	宍粟市山崎町五十波 430 森林林業技術センター内	0790-62-2118
奈良県林業研究グループ連絡協議会		(お問い合わせは全国林業研究グループ連絡協議会へ)	03-3500-5035
和歌山県林業研究グループ連絡協議会	640-8585	和歌山市小松原通 1-1 県庁林業振興課内	073-441-2960
鳥取県林業研究グループ連絡協議会	680-0411	八頭郡八頭町船岡殿 539	0858-72-1140
島根県林業研究グループ連絡協議会	690-8501	松江市殿町 1 番地 県農林水産部林業課内	0852-22-5153
岡山県林業研究グループ連絡協議会	700-8570	岡山市北区山下 2-4-6 県林政課内	086-226-7451
広島県林業研究グループ連絡協議会	730-8511	広島市中区基町 10-52 県農林水産局森林保全課内	082-513-4840
山口県林業研究グループ連絡協議会	753-8501	山口市滝町 1 - 1 県森林企画課内	083-933-3460
徳島県林業研究グループ連絡協議会	770-8001	徳島市津田海岸町 8 番 2 0 号 (公社) 徳島森林づくり推進機構内	088-679-8558
香川県林業普及協会	760-0008	高松市中野町 23-2 香川県森林組合連合会内	090-7626-1788
愛媛県林業研究グループ連絡協議会	791-1205	上浮穴郡久万高原町菅生二番耕地 280-38 県林業研究センター内	0892-21-2266
高知県林業研究グループ連絡協議会	783-0055	南国市双葉台 7 番地 1 高知県森林組合連合会内	088-855-7050
福岡県林業研究グループ連合会	839-0827	久留米市山本町豊田 1438-2 県資源活用研究センター内	0942-45-7868
佐賀県林業研究グループ連絡協議会	840-0212	佐賀市大和町大字池上 3408 林業試験場内	0952-62-0054
長崎県林業研究グループ連絡協議会	854-0063	諫早市貝津町 1122 番地 6 林業会館内	0957-25-0177
熊本県林業研究グループ連絡協議会	862-8570	熊本市中央区水前寺 6 丁目 18-1 県森林整備課内	096-333-2438
大分県林研グループ連合会	870-8501	大分市大手町 3-1-1 県林務管理課内	097-506-3823
宮崎県林業研究グループ連絡協議会	880-8501	宮崎市橋通東 2 丁目 10 番 1 号 県森林経営課内	0985-26-7154
鹿児島県林業研究グループ連絡協議会	892-0816	鹿児島市山下町 9-15 鹿児島県林業改良普及協会内	099-223-8550
沖縄県林業研究グループ連絡協議会	900-8570	那覇市泉崎 1-2-2 県森林管理課内	098-866-2295

編集スタッフ———岩渕 光則
齊藤 恵巳
石井 圭子
吉田 憲恵

レイアウト———森本 唯

装丁———クリエイティブ・コンセプト（松田晴夫）

令和6年度 未来の林業を支える林業後継者養成事業
林業を学び人材を育てる
未来の担い手を応援しよう 林業後継者育成活動事例集

発行———令和7年3月14日

発行者———齋藤 正

発行所———全国林業研究グループ連絡協議会(全林研)
〒100-0014 東京都千代田区永田町 1-11-30 サウスヒル永田町 5F
電話 03-3500-5035
FAX 03-3500-5038
webサイト <http://www.ringyou.or.jp/rinken/index.html>

編集———全国林業改良普及協会

印刷・製本所———株式会社丸井工文社



全林研 Youtube チャンネル
チャンネル登録を
よろしくお願いします。



全林研 Facebook
「いいね!」を
よろしくお願いします。

Printed in Japan

- 本書に掲載される本文、写真のいっさいの無断複写・引用・転載を禁じます。
- 著者、発行所に無断で転載・複写しますと、著者および発行所の権利侵害となります。

